



2015年7月

## Audit Data Standards

### Order to Cash Subledger Standard

2015年7月版



## AuditDataStandards. 02C. July2015 監査データ標準(受注・入金編)

Prepared by the AICPA Assurance Services Executive Committee  
Emerging Assurance Technologies Task Force

---

*Copyright © 2015 by American Institute of Certified Public Accountants, Inc. New York, NY 10036-8775*

*Permission is granted to make copies of this work provided that such copies are for personal, intra organizational, or educational use only and are not sold or disseminated and provided further that each copy bears the following credit line:*

本資料の複製は、個人利用、社内利用、または教育目的の場合のみ、かつ、販売または流布および提供目的ではない場合に、複製物に以下の文言を含めることで許可される。

*“Copyright © 2015 by American Institute of Certified Public Accountants, Inc. Used with permission.”*

*Copyright © 2015 by American Institute of Certified Public Accountants. All rights reserved. Translated with permission.*

なお、日本語の本仮訳は、AICPA の許可のもと、XBRL Japan 開発委員会ADS サブワーキング (SWG リーダー 公認会計士 木村章展) が実施をした。英語の原文が正である。今後、AICPA でのADS の改訂を受けて、予告なく翻訳を改訂する場合もある。

---

**Assurance Services Executive Committee (2014-2015)**

Robert Dohrer, <i>Chair</i>	Don Kluthe
Dorsey Baskin	Chris Kradjan
Bradley Beasley	Michael Ptasienski
Greg Bedard	Beth A. Schneider
Nancy Bumgarner	Miklos Vasarhelyi
Chris Halterman	Deetra B. Watson
Charles E. Harris	Don Pallais (Observer)

**Emerging Assurance Technologies Task Force**

**Audit Data Standard Working Group**

William R. Titera, <i>Chair</i>	Steven Henchock
Glenn Galfond, <i>Lead</i>	Mark Mayberry
Paul Barbour	Phillip McCollough
Karl Busch	Josh Phillips
Eric E. Cohen	Joel Pinkus
Charles E. Harris	Miklos Vasarhelyi
Kristine Hasenstab	

**Additional Contributors**

D. J. Elmore  
Gianluca Garbellotto

**AICPA Staff**

Amy Pawlicki <i>Director</i> <i>Business Reporting, Assurance &amp; Advisory Services</i>	Dorothy McQuilken <i>Manager</i> <i>Business Reporting, Assurance &amp; Advisory Services</i>
---	---

---

## Audit Data Standards 監査データ標準

標準化の利点はよく認識され、様々な一般的なIT標準の開発に結びついている。データ標準が必要な理由は、企業<sup>1</sup>のデータの効率的な交換に直面しているマネジメント、内部監査人および外部監査人にとって継続した問題である。このプロセスは、経理部門およびIT人員が異なる観点からこのような情報を要求することから複雑になる。例えば、ある場合には、監査関連のデータ依頼は、経理部門からより関与に制限のある企業のIT部門へ直接転送される。多くの場合では、監査人にとってデータ要求は負担である。

AICPAアシュアランスサービスエグゼクティブ委員会は監査および他の関連する目的のために一般に要求されるファイルとフィールドのためのフォーマットの標準化によって監査プロセスの効率性および有効性にこの監査データ標準(ADS)が貢献するだろうと考えている。同様に、もし企業が内部監査人および外部監査人などとデータを共有することを決めれば、標準化された情報(債権者のような)の他の消費者も利益を得るであろう。大企業、そして中小企業、公開若しくは非公開企業は、監査データ標準の適用からさらに利益を得るかもしれない。監査人によって定期的に要求されたデータの標準化によって、企業は情報の要求プロセスを自動化し、複製することができ、それによって、要求されたデータを提供するのに必要な時間と労力を減らすことができる。さらに、企業のスタッフおよび内部監査人は、内部目的のための標準化されたデータを利用することにより強化された解析能力から利益を得るであろう。さらに、この標準はそのデータを外部監査人が強化されたデータ分析を行なうのに利用可能とするであろう。

これらの標準は、良く設計された会計および財務報告システムに導入することができるすぐれた慣行である。この公表物は受注・入金補助元帳について提示する。

監査データ標準はテクニカル・デザイン(ファイル、テーブル、フィールド、フォーマットなど)、およびその使用についての理解にとって不可欠なデータに関する補足的事項を提示している。前者は、通常ITシステム設計に対して提示されることが適している。後者は、一般的に経理あるいは財務担当者によって、IT担当者からの入力による情報が提供される。これらが情報の抽出のための任意の推奨されたデータ標準であることに留

---

<sup>1</sup> この表現としての企業は、企業、パートナーシップ、政府機関、非営利事業体などを表現するために意図され、営利団体に限定されるものではないことに留意する。

---

意すること。これらのデータ抽出標準は必須のものではない。また、権威のある監査あるいは会計基準から提示されたものでもない。

特に規模および産業特性により、均一性の価値および個々の企業への適応の利点を認識して、これらの標準は、ある程度の柔軟性を提供する。これらの標準は、各国特有の要件に対応しており、国際的な適用が可能である。これは最低の標準で、制限することが目的ではない。したがって、ユーザはユーザ定義のフィールドをカスタマイズして、作成してもよい(例えば、項目は除かれるべきではない。しかし、標準にまだ存在しないところで、項目が加えられるかもしれない)。しかしながら、標準化(特に示されなかった時)の利点を達成するために、個々のカスタマイゼーションは回避されるべきである(言い換えれば、項目が標準に定義されている場合は、それを再定義しない)。一旦企業が特定の取り決めを採用すれば、主なITシステムの変更の実施や標準化されたデータの供給者および利用者の相互に合意された拡張がない限り、一貫してこの取り決めによってそのデータを提供するべきである。

監査データ標準の規約は、そのデータ標準の設計者が携わった大多数のシステムからの要求を基に設計された。つまり、フラットファイル(パイプ区切り)のフォーマットでは、「反復性」がある特定のフィールドは特定の数字で固定されたことを意味する。次のような場合である。

- 監査データ標準(基礎編)のBusiness\_Unit\_Listing:
  - Business\_Unit\_Hierarchy[1] - [5]
- 監査データ標準(総勘定元帳編)等のGL\_Detail\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD:
  - Segment[01] - [05]
- 監査データ標準(売掛債権編)または(受注・入金編)のCustomer\_Master\_YY  
YYMMDD:
  - 住所および請求先住所
- 監査データ標準(仕入・支払編)等のInvoices\_Received\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD:
  - GL\_Debit\_Account\_NumberおよびGL\_Credit\_Account\_Number

最後の例では、入力行には貸方および借方の勘定科目がある。詳細ではなく概要を生成

---

する場合、全請求書には以下の場合を除いて貸方および借方の組が1つのみ存在する。

1. 監査人および被監査会社が、詳細の勘定項目の最後に追加で貸方および借方の勘定項目を増やすフォーマットで問題ない同意した場合
2. パイプ区切りのフォーマットではなく、XBRL GLフォーマットが使用される場合。XBRL GLカラムの注釈に記載される通り、XBRL GLはフラットファイルフォーマットよりも多くの項目を許可するデータ表現方法を採用している。

さらに複雑で階層的または重複する項目が必要になる場合、XBRL GLは監査データ標準を使用した共有データを表現するにはより実用的なフォーマットである。

監査データ標準を導入する企業は、最初に支援のためにエンタープライズ・リソース・プランニング(ERP)か会計パッケージベンダと連絡をとるべきである。ベンダが監査データ標準の適用に対して解決策を持たない場合、ベンダは監査データ標準にマッピングするために利用することができるスクリプトを作成しているため、それを使用してデータを抽出、変換、ロード(またはETL)する。

これらのデータ標準を導入する前に、職務分離のテストと内部統制の利用を通じてデータの信頼度が評価されるべきである。これらのタイプの評価標準のためのガイダンスは[aicpa.org](http://aicpa.org)で入手可能である。

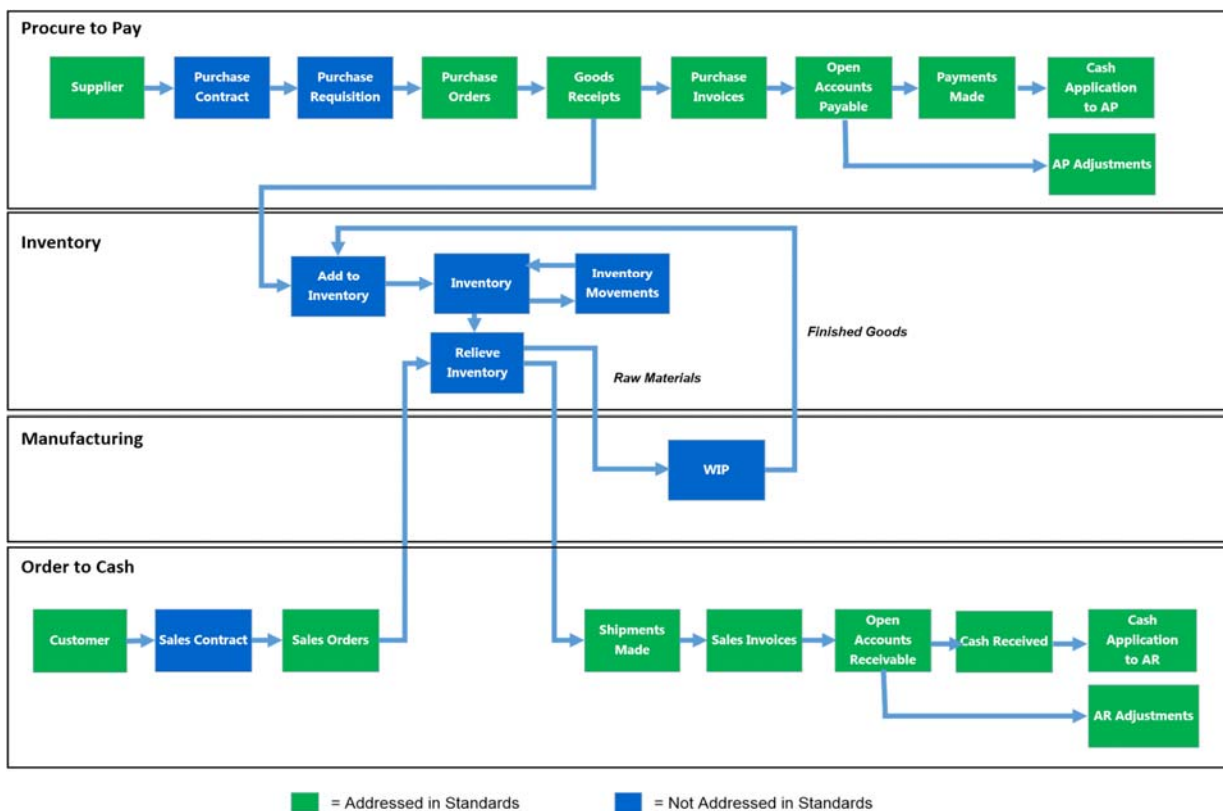
## 1. 受注・入金補助元帳標準

この公表物は受注・入金(02C)業務について記載しており、前版の監査データ標準(売掛債権編)を拡張し、それに取って代わるものである。

この版の受注・入金監査データ標準は、受注・入金における基本的な分析を可能にすることを意図する。その分析とは、売掛債権残高のうちどれだけ入金があり償却があり、例外的に古い債権などで支払されているかについての指定された期間の活動水準の分析などである。この標準は、内部プロセスを改善するために企業のスタッフおよび内部監査によって行なわれるかもしれない分析と同様に監査の一部として行なわれる分析を促進することを意図されている。この標準の更新版では、さらに詳細かつ業種特有の内容が追加され、分析のための機会が拡大される可能性がある。

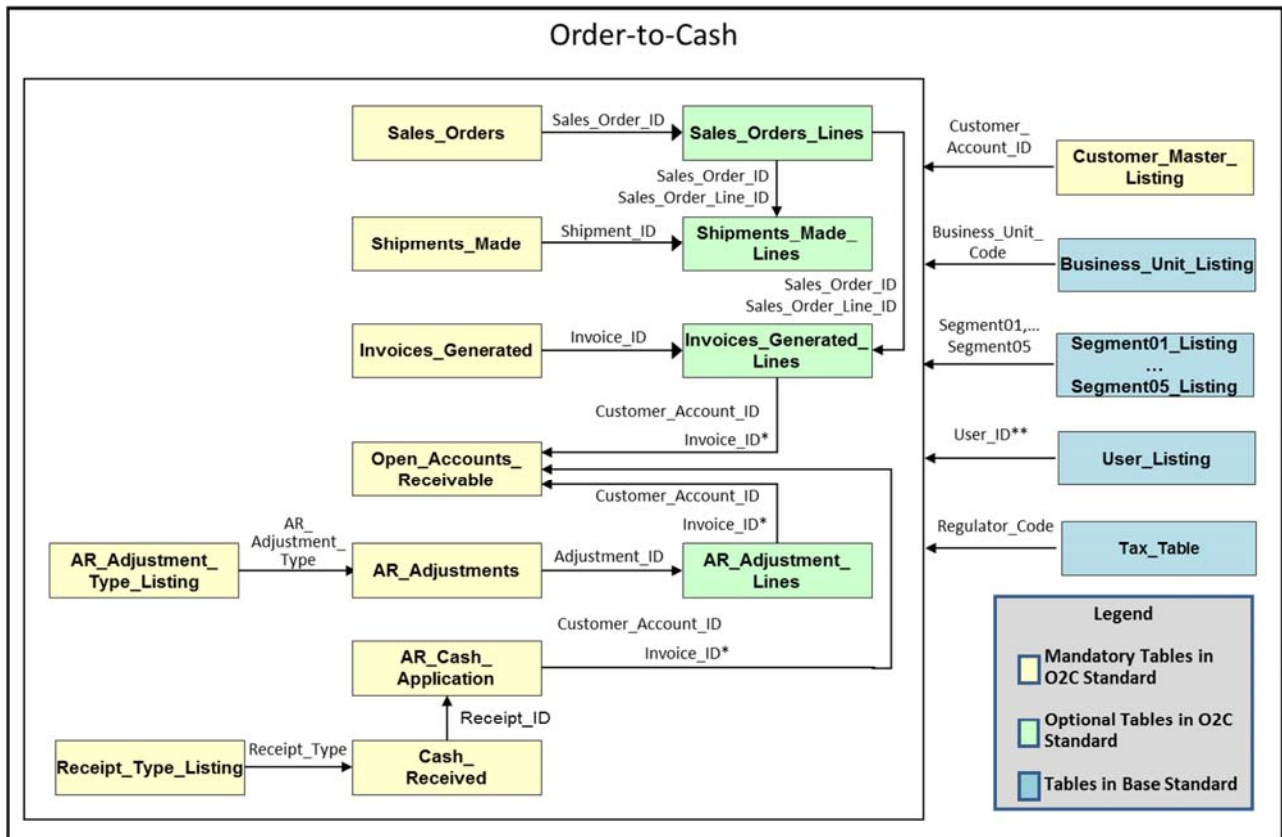
受注・入金はサプライチェーンに関連する複数の業務プロセスの一部である。図1はサプライチェーンのプロセスの概要である。この受注・入金監査データ標準とそれに関連する仕入・支払監査データ標準で提示されるサプライチェーンの各要素を示している。

図1: 監査データ標準で提示されるサプライチェーンの各要素



受注・入金標準監査データは関連情報を含んでいる多数のテーブルで定義されている。図2は、受注・入金標準でテーブルの関係を示すデータ・ダイアグラムを提供している。AICPAのウェブサイトにある基礎標準文書と共に受注・入金補助元帳標準が使用されるべきであることに留意することが重要である。

図2:受注・入金監査データ標準におけるテーブル間のデータの関係



\* If receivable balances are tracked by customer only (not by invoice), then Customer\_Account\_ID is used as a key to join tables to the Open\_Accounts\_Receiveable table instead of both Customer\_Account\_ID and Invoice\_ID

\*\* The User\_Listing table can be joined to three fields, all of which contain a user ID – Entered\_by, Approved\_By, Last\_Modified\_By

受注・入金標準監査データは、「詳細レベル」(販売注文や請求書等の各勘定項目に対して情報があるレベル)で提供されることもあれば、「概要レベル」(販売注文や請求書等に関する総計情報レベル)で提供されることもある。管理しきれないデータ容量にならない限り、詳細レベルのデータが望ましい。図2では、緑色のテーブルは、詳細レベルのデータが提供される場合は含まれ、概要レベルのデータの場合は含まれない。



---

受注・入金標準の各テーブル内にあるデータフィールドの「レベル」カラムは、データの重要性を示すために「1」あるいは「2」、どちらか一方のラベルを持っている。第1レベルの項目は必須である(ITシステムか追加の手段によって利用可能な場合)。第2レベルの項目は推奨されるが、必ずしも入手可能だとは限らないかもしれない。利用可能ではないフィールドは別途指定されるべきである。

次のサブセクションでは、受注・入金監査データ標準について詳述している。

## 2.0 受注・入金標準データ<sup>2</sup>

- 2.1 Sales\_Orders\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD
- 2.2 Sales\_Orders\_Lines\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD
- 2.3 Shipments\_Made\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD
- 2.4 Shipments\_Made\_Lines\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD
- 2.5 Invoices\_Generated\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD
- 2.6 Invoices\_Generated\_Lines\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD
- 2.7 Open\_Accounts\_Receivable\_YYYYMMDD
- 2.8 Cash\_Received\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD
- 2.9 AR\_Cash\_Application\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD
- 2.10 AR\_Adjustments\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD
- 2.11 AR\_Adjustments\_Lines\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD
- 2.12 Receipt\_Type\_Listing\_YYYYMMDD
- 2.13 AR\_Adjustment\_Type\_Listing\_YYYYMMDD
- 2.14 Customer\_Master\_Listing\_YYYYMMDD

タブ区切りのフォーマットによる「フラット」な(階層構造を持たない、記録単位による)設計であるため、「勘定項目」(詳細)はファイル構造内で定義されたSales\_Orders\_Lines\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDおよびSales\_Orders\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDなどのヘッダからは分離する必要があることに留意したほうがよい。次のXBRL GLガイダンスは、監査デー

---

<sup>2</sup> テーブルに2つの日付を含む場合、その日付は抽出期間の開始日と終了日を表すことに留意する。テーブルに1つの日付を含む場合、その日付はデータ抽出日である。

---

タ標準のプロファイルとしてこの分離を規定する。ただし、XBRL GLは、情報交換における事前の同意によって、XMLの特性を利用してヘッダと詳細項目を結合して単一のファイルにすることができるため、ファイルの生成および交換ではより効率的で有力な手段となり得る。「1つの請求に対して1レコード」または「各出荷に関連する複数の販売注文に対して1レコード」というようなことまで言及する指示は、フラットファイルフォーマットの限界を表す。例えば、XBRL GLではgl-tag:originatingDocument構造を利用することにより、1つのentryDetailを幅広い種類の関連する元文書に関連付けることができる(XBRL GLの指示では、可能な場合は、互換性を目的としてフラットファイルの制限を模倣するように設計されている)。

## 2.1 Sales\_Orders\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD

Sales\_Orders\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDファイルは、少なくとも、調査中の期間内に行われたすべての販売注文を含む。このファイルには、調査中の期間内に記録された取引に関連する、当期および前期のすべての販売注文が含まれるのが理想的である。しかし、これらの販売注文の一部は、はるか過去に行われた可能性があるため、被監査会社および監査人は含めるべき販売注文履歴を決定するための判断をしなければならない。

このファイルでは、各販売注文に対してそれぞれ1レコードとなる。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素 <sup>3</sup>	説明
			データ型	長さ <sup>4</sup>		
1	Sales_Order_ID	1	TEXT	100	gl-cor:documentReference with glcor:documentType = "order-customer"	各販売注文に一意的識別子。このIDは、(例えば、文書番号、文書種別、および年)は、各販売注文を一意的に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。
2	Sales_Order_Document_ID	1	TEXT	100	gl-cor:documentNumber	販売注文の識別子番号または識別子コード。

<sup>3</sup> XBRL GLファイル構造のサブディレクトリ¥plt¥case-c-b-m-u-tにあるXMLスキーマファイルgl-plt-2006-10-25.xsdのエントリーポイントから取得される。事前の合意がない限り、これはschemaLocationに使用されるべきである。後日の草案の合意が得られない、又は有益でない限り、ユーザは、最新の利用可能な推奨バージョンを利用する必要がある。

<sup>4</sup> 文書全体を通して、この列は、推奨される最大の長さを示している。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
3	Sales_Order_Date	1	DATE		gl-cor:documentDate	販売注文日。販売注文が入力された日とは関係がない。
4	Sales_Order_Fiscal_Year	1	TEXT	4	gl-bus:fiscalYearEnd	Sales_Order_Dateが記帳された会計年度。YYYYは区切りに使用される。XBRL GLでは会計期末CCYYMMDD (ISO 8601)。
5	Sales_Order_Period	1	TEXT	10	gl-bus:postingCode	Sales_Order_Dateが記帳された会計期間。  例には、週単位の期間としてW1-W53、月単位の期間としてM1-M12、四半期単位の期間としてQ1-Q4を含む。
6	Business_Unit_Code	1	TEXT	50	gl-bus:organizationIdentifier	財務諸表が監査対象となるレベルで事業単位、地域、支店などを識別するために利用される。Business_Unit_Listingファイル内のBusiness_Unit_Codeと一致しなければならない。

7	Customer_Account_ID	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode with glcor:identifierType = "customer"	支払が予想されている顧客の識別子か、買掛計上に対する支払を行う顧客の識別子。Customer_Master_Listing_YYYYMMDDファイル内のCustomer_Account_IDと一致しなければならない。
8	Entered_By	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode with glcor:identifierCategory = "systemUser"	記録を残した人の (User_Listingファイル内の)User_ID。
9	Entered_Date	2	DATE		gl-cor:enteredDate	注文がシステムに入力された日付。これは、時に作成日と呼ばれる。可能な場合、これは、(ユーザが入力した日付ではなく)システムで生成された日付にする必要がある。この日付は、必ずしも、実際の取引の日付に対応していない。
10	Entered_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of glcor:enteredDate, mentioned previously.)	この取引をシステムに入力した時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻 (HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。
11	Approved_By	2	TEXT	100	gl-cor:entryResponsiblePerson	顧客マスタの追加や変更の承認者の (User_Listingファイルの)ユーザID。
12	Approved_Date	2	DATE		gl-usk:nextDateRepeat	入力が承認された日付。

13	Approved_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-usk:nextDateRepeat, mentioned previously.)	入力が承認された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。
----	---------------	---	------	--	---	---

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
14	Last_Modified_By	2	TEXT	100	gl-bus:enteredByModified	この入力を最後に修正したユーザの(User_Listingの)User_ID。
15	Last_Modified_Date	2	DATE		gl-usk:lastDateRepeat	入力が最後に変更された日付。
16	Last_Modified_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-usk:lastDateRepeat, mentioned previously.)	入力が最後に変更された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。
注記: 詳細(勘定項目)データが提供される場合、次のフィールドは省略される場合がある。						
17	Sales_Order_Amount_Local	1	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount	現地通貨で記録された販売金額。
18	Sales_Order_Local_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素 <sup>1</sup>	説明
			データ型	長さ <sup>2</sup>		
19	Segment01	2	TEXT	25	gl-cor:accountSubID with associated gl-cor:accountSubType  (Note:XBRL GL tracks hierarchy ID, hierarchy description, and hierarchy type, so it can track code NA, description N. America, and type global area using gl-cor:accountSubID, glcor:accountSubDescription, and glcor:accountSubType, respectively.)	プロフィット・センター、部門、ファンド、プログラム、支店、プロジェクトなどのために使用することができる準備されたセグメントフィールド。
20	Segment02	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
21	Segment03	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
22	Segment04	2	TEXT	25	上記参照	上記参照

23	Segment05	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
----	-----------	---	------	----	------	------

### XBRL GLへの追加コメント

販売注文リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = “other”	[entriesType]は必須フィールドである。 [other]は列挙型の値である。
gl-cor: entriesComment	value = “ads: Sales_Orders_YYYYMMDD_YY YMMDD”	[entriesComment]は情報収集に共通して いるものを説明する説明フィールドであ り、 この表現に関連して収集するタイプの監 査データ標準の名前空間と修飾子を導入 する。



## 2.2 Sales\_Orders\_Lines\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD

Sales\_Orders\_Lines\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDファイルには、Sales\_Orders\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDファイル内にある販売注文に対する詳細勘定項目が含まれる。このファイルの使用は任意であるが、管理しきれないデータ容量ではない限り、使用することが推奨される。

このファイルでは、販売注文の各勘定項目に対してそれぞれ1レコードとなる。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
1	Sales_Order_ID	1	TEXT	100	gl-cor:documentReference with glcor:documentType = "order-customer"	各販売注文に一意の識別子。このIDは、（例えば、文書番号、文書種別、および年）は、各取引を一意に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。
2	Sales_Order_Line_ID	1	TEXT	10	gl-cor:lineNumber	販売注文の勘定項目番号の識別子。

3	Sales_Order_Line_Product_ID	1	TEXT	25	gl-bus:measurableIDOther	各販売商品に一意的識別子。このIDは、(例えば、事業単位、商品番号、および年など)は、各商品を一意に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。
4	Sales_Order_Product_Code	1	TEXT	25	gl-bus:measurableID	取引文書に表示される現地商品の勘定項目番号コード。
5	Sales_Order_Line_Product_Description	1	TEXT	100	gl-bus:measurableDescription	商品の名前やその他の識別する特徴を表す説明(平易な英語)。
6	Sales_Order_Line_Product_Group_01	2	TEXT	25	gl-bus:measurableCodeDescription	商品の記述子(01)。例えば、タイヤや付属品など。
7	Sales_Order_Line_Product_Group_02	2	TEXT	25	gl-bus:measurableCategory	商品の記述子(02)。例えば、銘柄など。
8	Sales_Order_Line_Quantity	1	NUMERIC		gl-bus:measurableQuantity	販売注文の品目量。
9	Sales_Order_Line_Unit_of_Measure	2	TEXT	25	gl-bus:measurableUnitOfMeasure	販売注文の勘定項目を計量する基本単位。
10	Sales_Order_Line_Unit_Price	1	NUMERIC		gl-bus:measurableCostPerUnit	販売注文の勘定項目の単位当たりの価格。
11	Sales_Order_Line_Amount_Local	1	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount	現地通貨で記録された販売金額。
12	Sales_Order_Line_Local_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
13	Segment01	2	TEXT	25	gl-cor:accountSubID with associated gl-cor:accountSubType  (Note:XBRL GL tracks hierarchy ID, hierarchy description, and hierarchy type, so it can track code NA, description N. America, and type global area using gl-cor:accountSubID, glcor:accountSubDescription, and glcor:accountSubType, respectively.)	プロフィット・センター、部門、ファンド、プログラム、支店、プロジェクトなどのために使用することができる準備されたセグメントフィールド。
14	Segment02	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
15	Segment03	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
16	Segment04	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
17	Segment05	2	TEXT	25	上記参照	上記参照

### XBRL GLへの追加コメント

販売注文の勘定項目リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = “other”	[entriesType]は必須フィールドである。[other]は列挙型の値である。
gl-cor:entriesComment	value = “ads: Sales_Orders_Lines_YYYYMMDD_YYYYMMDD”	[entriesComment]は情報収集に共通しているものを説明する説明フィールドであり、この表現に関連して収集するタイプの監査データ標準の名前空間と修飾子を導入する。

### 2.3 Shipments\_Made\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
1	Shipment_ID	1	TEXT	100	gl-cor:documentReference	各出荷に一意の識別子。このIDは、(例えば、文書番号、文書種別、および年)は、各出荷を一意に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。
2	Shipment_Date	1	DATE		gl-cor:documentDate	出荷日(出荷された日)。
3	Shipment_Fiscal_Year	1	TEXT	4	gl-bus:fiscalYearEnd	Shipment_Dateが記帳された会計年度。YYYYは区切りに使用される。XBRL GLタクソノミフレームワークのための会計期末CCYY-MM-DD(ISO 8601)。
4	Shipment_Period	1	TEXT	10	gl-bus:postingCode	Shipment_Dateが記帳された会計期間。  例では週単位の期間としてW1-W53、月単位の期間としてM1-M12、四半期単位の期間としてQ1-Q4が含まれている。

---

Shipments\_Made\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDファイルは、少なくとも、調査中の期間内に行われた販売注文に対するすべての出荷および出荷調整を含む。このファイルには、出荷が前期に行われた場合であっても、調査中の期間内に記録された取引(請求や支払など)に関連するすべての出荷が含まれるのが理想的である。監査人は、含めるべき出荷履歴を決定するための判断をしなければならない。このファイルには、関係がない産業(例えば、サービス業など)もある。

このファイルでは、各出荷に関連付けられる各販売注文に対してそれぞれ1レコードとなる。例えば、1つの出荷に3つの販売注文からの商品が含まれていた場合、この出荷に対しては3つのレコードがあることになり、1レコードは3つの販売注文のうちの1つずつに関連付けられる出荷内の複数商品に対応する。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
5	Adjustment_Indicator	2	TEXT	1	gl-cor:detailComment with values “0” or “1” ; gl-cor:documentType of “shipment”	取引がはじめの出荷取引の場合は「0」となり、出荷調整の場合は「1」となる。
6	Adjustment_Description	2	TEXT	100	gl-cor:documentTypeDescription	出荷調整が行われている場合における、その調整の理由についての説明。
7	Shipping_Document_ID	1	TEXT	100	gl-cor:documentNumber	出荷帳票の参照番号 (企業参照または物流企業識別子)。
8	Customer_Account_ID	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode with glcor:identifierType = “customer”	商品を購入する顧客。Customer_Master_Listing_YYYYMMDDファイル内のCustomer_Account_IDに一致しなければならない。
9	Business_Unit_Code	1	TEXT	50	gl-bus:organizationIdentifier	財務諸表が監査対象となるレベルで事業単位、地域、支店などを識別するために利用される。Business_Unit_Listingファイル内のBusiness_Unit_Codeと一致しなければならない。

10	Sales_Order_ID	1	TEXT	100	gl-taf:originatingDocumentNumber with gl-taf:originatingDocumentType = "order-customer" *	出荷された商品の販売注文ID。Sales_Orders_YYYYMMDD_YYYYMMDDファイル内のSales_Order_IDと一致しなければならない。  販売注文がない場合、空白のままにする。
11	Sales_Order_Date	1	DATE		gl-cor:documentDate*	出荷された商品の販売注文日。販売注文がない場合、空白のままにする。
12	Entered_By	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode with glcor:identifierCategory = "systemUser"	出荷記録を残した人の (User_Listingファイル内の) User_ID。
13	Entered_Date	2	DATE		gl-cor:enteredDate	注文がシステムに入力された日付。これは、時に作成日と呼ばれる。可能な場合、これは、(ユーザが入力した日付ではなく) システムで生成された日付にする必要がある。この日付は、必ずしも、実際の取引の日付に対応していない。
14	Entered_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of glcor:enteredDate, above)	この取引をシステムに入力した時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻 (HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。
15	Approved_By	2	TEXT	100	gl-cor:entryResponsiblePerson	出荷記録を承認した人の (User_Listingファイル内の) User_ID。



16	Approved_Date	2	DATE		gl-usk:nextDateRepeat	入力が承認された日付。
17	Approved_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-usk:nextDateRepeat, mentioned previously)	入力が承認された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。
18	Last_Modified_By	2	TEXT	100	gl-bus:enteredByModified	この入力を最後に修正したユーザの(User_Listingの)User_ID。
19	Last_Modified_Date	2	DATE		gl-usk:lastDateRepeat	入力が最後に変更された日付。
20	Last_Modified_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-usk:lastDateRepeat, mentioned previously)	入力が最後に変更された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。
注記: 詳細(勘定項目)データが提供される場合、次のフィールドは省略される場合がある。						

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
21	Shipping_Amount_Local	2	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount*	販売注文に関連する出荷帳票の商品の合計金額。 現地通貨で記録される。
22	Shipping_Amount_Local_Currency	2	TEXT	3	gl-muc:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。
23	Sales_Order_Amount_Local	2	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount	出荷帳票に関連する販売注文内の商品の合計金額。現地通貨で記録される。販売注文がない場合、空白のままにする。
24	Sales_Order_Local_Currency	2	TEXT	3	gl-muc:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。販売注文がない場合、空白のままにする。
25	Segment01	2	TEXT	25	gl-cor:accountSubID with associated gl-cor:accountSubType  (Note:XBRL GL tracks hierarchy ID, hierarchy description, and hierarchy type, so it can track code NA, description N. America, and type global area	プロフィット・センター、部門、ファンド、プログラム、支店、プロジェクトなどのために使用することができる準備されたセグメントフィールド。

					using gl-cor:accountSubID, glcor:accountSubDescription, and glcor:accountSubType, respectively.)	
26	Segment02	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
27	Segment03	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
28	Segment04	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
29	Segment05	2	TEXT	25	上記参照	上記参照

## XBRL GLへの追加コメント

出荷済リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = “other”	[entriesType]は必須フィールドである。 [other]は列挙型のである。
gl-cor: entriesComment	value = “ads: Shipments_Made_YYYYMMDD_YYYYMMDD”	[entriesComment]は情報収集に共通して いるものを説明する説明フィールドであり、 この表現に関連して収集するタイプの監 査データ標準の名前空間と修飾子を導入 する。

\* 出荷は複数の注文に対して行うことができるため、元の注文番号に関連する注文からの注文は、独立した1つのentryDetailとして表示され、注文詳細(元の注文情報を含む)と出荷勘定項目(元の注文情報を含まない、入力の見出しをグループ化することで関連付けられる)は区別される。

## 2.4 Shipments\_Made\_Lines\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD

Shipments\_Made\_Lines\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDファイルには、Shipments\_Made\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDファイル内にあるすべての出荷および出荷調整に対する詳細勘定項目が含まれる。このファイルの使用は任意であるが、管理しきれないデータ容量ではない限り、使用することが推奨される。このファイルには、関係がない産業(例えば、サービス業など)もある。

このファイルでは、各出荷または各出荷調整の各勘定項目に対してそれぞれ1レコードとなる。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
1	Shipment_ID	1	TEXT	100	gl-cor:documentReference	各出荷に一意の識別子。このIDは、(例えば、文書番号、文書種別、および年)は、各出荷を一意に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。Shipments_Made_YYYYMMDD_YYYYMMDDファイル内のShipment_IDフィールドに一致しなければならない。
2	Shipping_Document_Line_ID	1	TEXT	10	gl-cor:lineNumber*	出荷帳票の勘定項目の参照番号。
3	Shipping_Product_ID	1	TEXT	25	gl-bus:measurableIDOther	各商品に一意の識別子。
4	Shipping_Product_Code	1	TEXT	25	gl-bus:measurableID	取引文書に表示される商品コード。
5	Shipping_Product_Description	1	TEXT	100	gl-bus:measurableDescription	商品の名前やその他の識別する特徴を表す説明(平易な英語)。
6	Shipping_Product_Bar_Code	2	TEXT	100	gl-bus:measurableIDOther	商品統一コード(UPC)またはその他の一般識別子。
7	Shipping_Product_Group_01	2	TEXT	25	gl-bus:measurableCodeDescription	商品の記述子(01)。例えば、タイヤや付属品など。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
8	Shipping_Product_Group_02	2	TEXT	25	gl-bus:measurableCategory	商品の記述子(02)。例えば、銘柄など。
9	Shipping_Quantity	1	NUMERIC		gl-bus:measurableQuantity	出荷された商品量。
10	Shipping_Unit_of_Measure	2	TEXT	25	gl-bus:measurableUnitOfMeasure	計量の基本単位。
11	Shipping_Unit_Price	1	NUMERIC		gl-bus:measurableCostPerUnit	出荷された商品の単位あたりの価格。
12	Shipping_Line_Amount_Local	1	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount*	販売注文に関連する出荷帳票内の勘定項目の合計金額。 現地通貨で記録される。
13	Shipping_Line_Amount_Local_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。
14	Sales_Order_Line_ID	1	TEXT	10	gl-cor:lineNumber*	出荷された商品に対する販売注文の勘定項目ID。Sales_Orders_YYYYMMDD_YYYYMMDDファイル内のSales_Order_Line_IDに一致しなければならない。 販売注文がない場合、空白のままにする。

15	Sales_Order_Quantity	2	NUMERIC		gl-bus:measurableQuantity	販売注文勘定項目のはじめの量。販売注文がない場合、空白のままにする。
16	Sales_Order_Unit_of_Measure	2	TEXT	25	gl-bus:measurableUnitOfMeasure	販売注文の勘定項目を計量する基本単位。販売注文がない場合、空白のままにする。
17	Sales_Order_Unit_Price	2	NUMERIC		gl-bus:measurableCostPerUnit	販売注文明細の単位当たりの価格。販売注文がない場合、空白のままにする。
18	Sales_Order_Line_Amount_Local	1	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount	出荷帳票の勘定項目に関連する販売注文内の勘定項目に対する金額。現地通貨で記録される。販売注文がない場合、空白のままにする。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
19	Sales_Order_Local_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。販売注文がない場合、空白のままにする。
20	Segment01	2	TEXT	25	gl-cor:accountSubID with associated gl-cor:accountSubType  (Note:XBRL GL tracks hierarchy ID, hierarchy description, and hierarchy type, so it can track code NA, description N. America, and type global area using gl-cor:accountSubID, glcor:accountSubDescription, and glcor:accountSubType, respectively.)	プロフィット・センター、部門、ファンド、プログラム、支店、プロジェクトなどのために使用することができる準備されたセグメントフィールド。
21	Segment02	2	TEXT	25	上記参照	上記参照



22	Segment03	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
23	Segment04	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
24	Segment05	2	TEXT	25	上記参照	上記参照

### XBRL GLへの追加コメント

出荷済リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = “other”	[entriesType]は必須フィールドである。[other]は列挙型のである。
gl-cor: entriesComment	value = “ads: Shipments_Made_Lines_YYYYMMDD_YYYYMMDD”	[entriesComment]は情報収集に共通しているものを説明する説明フィールドであり、この表現に関連して収集するタイプの監査データ標準の名前空間と修飾子を導入する。

\* 出荷は複数の注文に対して行うことができるため、元の注文番号に関連する注文からの注文は、独立した1つのentryDetailとして表示され、注文詳細(元の注文情報を含む)と出荷勘定項目(元の注文情報を含まない、入力の見出しをグループ化することで関連付けられる)は区別される。

---

## 2.5 Invoices\_Generated\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD

Invoices\_Generated\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDファイルは、少なくとも、調査中の期間内に生成されたすべての請求書を含む。監査人は、含めるべき過去の請求書を決定するための判断をしなければならない。

このフラットフォーマットファイルでは、各請求書に関連付けられる各販売注文に対してそれぞれ1レコードとなる。例えば、1つの請求書に3つの販売注文からの商品が含まれていた場合、この請求書に対しては3つのレコードがあることになり、1レコードは3つの販売注文の1つずつに関連付けられる請求書内の複数商品に対応する。XBRL GLはgl-taf:originatingDocumentNumberを利用してgl-cor:entryDetail行に関連する取引文書に関連付ける。ただし、この設計では、個別のglcor:entryHeaderレコードを使用することでフラットファイルフォーマットでより大きな比較可能性を持つ。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
1	Invoice_ID	1	TEXT	100	gl-cor:documentReference	各請求書に一意的識別子。このIDは、(例えば、文書番号、文書種別、および年)は、各取引を一意的に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。請求書データを含む次のすべてのテーブルと同じIDが使用されていないなければならない (Invoices_Generated_YYYYMMDD_YYMMDD、Open_Accounts_Receivable_YYYYMMDD、AR_Cash_Application_YYMMDD_YYYYMMDD、およびAR_Adjustments_YYYYMMDD_YYYYMMDD)。
2	Invoice_Number	1	TEXT	100	gl-cor:documentNumber with glcor:documentType = "invoice"	内部で作成された請求書の識別番号。
3	Invoice_Date	1	DATE		gl-cor:documentDate	請求書の日付。請求書が入力された日付とは関係がない。請求書の条件に基づいて計算された日付。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
4	Invoice_Fiscal_Year	1	TEXT	4	gl-bus:fiscalYearEnd	Invoice_Dateが記帳された会計年度。YYYYは区切りに使用される。XBRL GLタクソノミフレームワークのための会計期末CCYY-MM-DD (ISO 8601)。
5	Invoice_Period	1	TEXT	10	gl-bus:postingCode	Invoice_Dateが記帳された会計期間。 例には、週単位の期間としてW1-W53、月単位の期間としてM1-M12、四半期単位の期間としてQ1-Q4を含む。
6	Invoice_Due_Date	1	DATE		gl-cor:MaturityDate	顧客からの支払期日。債権の年齢調べは、通常はこの日付に基づいて計算される。
7	Sales_Order_ID	1	TEXT	100	gl-taf:originatingDocumentNumber with gl-taf:originatingDocumentType = "order-customer" *	請求項目に対する販売注文ID。Sales_Orders_YYYYMMDD_YYYYMMDDファイル内のSales_Order_IDに一致しなければならない。 販売注文がない場合、空白のままにする。

8	Business_Unit_Code	1	TEXT	50	gl-cor:organizationidentifier	財務諸表が監査対象となるレベルで事業単位、地域、支店などを識別するために利用される。Business_Unit_Listingファイル内のBusiness_Unit_Codeと一致しなければならない。
9	Customer_Account_ID	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode with glidentifierType = "customer"	支払が予想されている顧客の識別子か、買掛計上に対する支払を行う顧客の識別子。Customer_Master_Listing_YYYYMMDDファイル内のCustomer_Account_IDと一致しなければならない。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
10	Terms_Discount_Percentage	2	NUMERIC		gl-cor:terms	顧客が請求書の一定の日数前に支払う場合の割引率。フラットファイルでは、小数点以下1桁として表現される(例えば、10%が10.0として表現される)。拡張事業報告言語のXBRL GLタクソノミフレームワークにおいては、3つのフィールドTerms_Discount_Percentage、Terms_Discount_DaysおよびTerms_Due_Daysの3つのフィールドは、「xx.x% dd 最終支払期日 dd」の形式で入力されることになる。例えば実質支払期間が30日で、10日以内に支払うと2%割引となる場合では「2% 10 最終支払期日 30」で表現される。
11	Terms_Discount_Days	2	NUMERIC		See description for field # 10	請求書日付からの日数は、顧客が割引を利用するために有利である。これは小数点以下がない桁数(例えば、nnn)として数字として表現される。

12	Terms_Due_Days	2	NUMERIC		See description for field # 10; explicit in gl-cor:maturityDate	請求書に対する支払遅延となる前の、支払義務を果たすことが可能な日数。
13	Entered_By	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode with glcor:identifierCategory = "systemUser"	記録を残した人の(User_Listingファイル内の)User_ID。
14	Entered_Date	2	DATE		gl-cor:enteredDate	取引がシステムに入力された日付。これは、時に作成日と呼ばれる。可能な場合、これは、(ユーザが入力した日付ではなく)システムで生成された日付にする必要がある。この日付は、必ずしも、実際の取引の日付に対応していない。
15	Entered_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of glcor:enteredDate, above)	この取引をシステムに入力した時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM)(例: PM1:00 = 1300)。
16	Approved_By	2	TEXT	100	gl-cor:entryResponsiblePerson	顧客マスタの追加や変更の承認者の(User_Listingファイルの)User_ID。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
17	Approved_Date	2	DATE		gl-usk:nextDateRepeat	入力が承認された日付。
18	Approved_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-usk:nextDateRepeat, mentioned previously.)	入力が承認された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。
19	Last_Modified_By	2	TEXT	100	gl-bus:enteredByModified	この入力を最後に修正したユーザの (User_Listingの)User_ID。
20	Last_Modified_Date	2	DATE		gl-usk:lastDateRepeat	入力が最後に変更された日付。
21	Last_Modified_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-usk:lastDateRepeat, mentioned previously.)	入力が最後に変更された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。



フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
22	Grouping_Code	2	TEXT	100	gl-bus:batchID	複数の請求書のバッチ処理またはグループ化において関連する項目をグループ化する仕組み。例えば、特定のERPシステムで見つかった請求書のグループ化をする場合などがある。
注記: 詳細(勘定項目)データが提供される場合、次のフィールドは省略される場合がある。						
23	Invoice_Amount	1	NUMERIC		gl-cor:amount	機能通貨またはグループ通貨で記録された取引金額。すべて取引が単一通貨に記録されているため、多通貨換算を実行する必要はない。
24	Invoice_Amount_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountCurrency	請求金額に関連する機能通貨やグループ通貨。ISO 4217コーディングを参照。
25	Invoice_Amount_Reporting	1	NUMERIC		gl-muc:amountTriangulationAmount	報告通貨で記録された取引金額。
26	Invoice_Reporting_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountTriangulationCurrency	非連結報告のための請求書の報告金額に関連する報告通貨。ISO 4217コーディングを参照。

27	Invoice_Amount_Local	1	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount	現地通貨での取引金額。 通常は、原本請求書に記載された金額である。
28	Invoice_Local_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
29	Tax1_Type	1	TEXT	25	gl-cor:taxCode (Note that XBRL GL permits an unlimited number of tax codes and amounts with the glcor:taxes structure.)	税1タイプのコード(例: 売上税、付加価値税)。 このフィールドは、Tax_Table_YYYYMMDDのRegulator_Codeフィールドと一致する必要がある。
30	Tax2_Type	1	TEXT	25	同上	税2タイプのコード(例: 売上税、付加価値税)。 このフィールドは、Tax_Table_YYYYMMDDのRegulator_Codeフィールドと一致する必要がある。

31	Tax3_Type	1	TEXT	25	同上	税3タイプのコード(例: 売上税、付加価値税)。  このフィールドは、Tax_Table_YYYYMMDDのRegulator_Codeフィールドと一致する必要がある。
32	Tax1_Type_Description	1	TEXT	100	gl-cor:taxDescription (Note that XBRL GL formalizes the tax authority with gl-cor:taxAuthority and provides other standard fields as well.)	税1タイプの説明(例: 税を支払う税務当局や、税を特定するためのその他の情報など)。
33	Tax2_Type_Description	1	TEXT	100	同上	税2タイプの説明(例: 税を支払う税務当局や、税を特定するためのその他の情報など)。
34	Tax3_Type_Description	1	TEXT	100	同上	税3タイプの説明(例: 税を支払う税務当局や、税を特定するためのその他の情報など)。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
35	Tax1_Local	2	NUMERIC		gl-cor:taxAmount	税1タイプの金額は、取引に含まれている。現地通貨で記録される。
36	Tax2_Local	2	NUMERIC		同上	税2タイプの金額は、取引に含まれている。現地通貨で記録される。
37	Tax3_Local	2	NUMERIC		同上	税3タイプの金額は、取引に含まれている。現地通貨で記録される。
38	Segment01	2	TEXT	25	gl-cor:subAccountID with associated gl-cor:account SubType  (Note:XBRL GL tracks hierarchy ID, hierarchy description, and hierarchy type, so it can track code NA, description N. America, and type global area using gl-cor:accountSubID, glcor:accountSubDescription, and glcor:accountSubType, respectively.)	プロフィット・センター、部門、ファンド、プログラム、支店、プロジェクトなどのために使用することができる準備されたセグメントフィールド。

39	Segment02	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
40	Segment03	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
41	Segment04	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
42	Segment05	2	TEXT	25	上記参照	上記参照

#### XBRL GLへの追加コメント

請求書の生成リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = "other"	[entriesType]は必須フィールドである。 [other]は列挙型のである。
gl-cor: entriesComment	value = "ads: Invoices_Generated_YYYYMMDD_YYYYMMDD"	[entriesComment]は情報収集に共通しているものを説明する説明フィールドであり、 この表現に関連して収集するタイプの監査データ標準の名前空間と修飾子を導入する。

\* 請求書は多くの場合出荷情報に反映され、出荷は複数の注文に対して行うことができるため、元の注文番号に関連する注文や出荷からの各請求詳細は、独立した1つのentryDetailとして表示され、注文詳細(元の注文情報を含む)と請求詳細(元の注文情報はない、入力の見出しをグループ化することで関連付けられる)は区別される。

---

## 2.6 Invoices\_Generated\_Lines\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD

Invoices\_Generated\_Lines\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDファイルには、Invoices\_Generated\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDファイル内にある請求書の詳細勘定項目が含まれる。

このファイルの使用は任意であるが、管理しきれないデータ容量ではない限り、使用することが推奨される。

このファイルでは、請求書の勘定項目または販売注文の勘定項目の各組み合わせに対してそれぞれ1レコードとなる。通常は請求書の各勘定項目は販売注文の1つの勘定項目に関連付けられるため、このファイルは請求書の各勘定項目に対してそれぞれ1レコードとなる。稀に、請求書の勘定項目が複数の販売注文の勘定項目に関連付けられていることがあり、この場合は、このファイルでは請求書の勘定項目に関連する販売注文の各勘定項目に対してそれぞれ1レコードとなる。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
1	Invoice_ID	1	TEXT	100	gl-cor:documentReference	各請求書に一意の識別子。このIDは、(例えば、文書番号、文書種別、および年)は、各取引を一意に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。請求書データを含む次のすべてのテーブルと同じIDが使用されていないなければならない (Invoices_Generated_YYYYMMDD_YYYYMMDD、Open_Accounts_Recivable_YYYYMMDD、AR_Cash_Application_YYYYMMDD_YYYYMMDD、およびAR_Adjustments_YYYYMMDD_YYYYMMDD)。
2	Invoice_Line_ID	1	TEXT	10	gl-cor:lineNumber*	請求書の勘定項目番号。
3	Sales_Order_ID	1	TEXT	100	gl-taf:originatingDocumentNumber with gl-taf:originatingDocumentType = "order-customer" *	請求項目に対する販売注文ID。Sales_Orders_YYYYMMDD_YYYYMMDDファイル内のSales_Order_IDと一致しなければならない。販売注文がない場合、空白のままにする。



フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
4	Sales_Order_Line_ID	1	TEXT	10	gl-cor:lineNumber*	販売注文の勘定項目番号の識別子。 Sales_Orders_Lines_YYYYMMDD_YYYYMMDDファイル内のSales_Order_Line_IDに一致しなければならない。 販売注文がない場合、空白のままにする。
5	Invoice_Product_ID	1	TEXT	25	gl-bus:measurableID	各販売商品に一意の識別子。
6	Invoice_Product_Description	1	TEXT	100	gl-bus:measurableDescription	商品の名前やその他の識別する特徴を表す説明(平易な英語)。
7	Invoice_Product_Group_01	2	TEXT	25	gl-bus:measurableCodeDescription	商品の記述子(01)。例えば、タイヤや付属品など。
8	Invoice_Product_Group_02	2	TEXT	25	gl-bus:measurableCategory	商品の記述子(02)。例えば、銘柄など。

9	Invoice_Line_Amount	1	NUMERIC		gl-cor:amount	機能通貨またはグループ通貨で記録された取引金額。すべて取引が単一通貨に記録されているため、多通貨換算を実行する必要はない。
10	Invoice_Line_Amount_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountCurrency	請求金額に関連する機能通貨やグループ通貨。ISO 4217コーディングを参照。
11	Invoice_Line_Amount_Reporting	1	NUMERIC		gl-muc:amountTriangulationAmount	報告通貨で記録された取引金額。
12	Invoice_Line_Reporting_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountTriangulationCurrency	非連結報告のための請求書の報告金額に関連する報告通貨。ISO 4217コーディングを参照。
13	Invoice_Line_Amount_Local	1	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount	現地通貨での取引金額。
14	Invoice_Line_Local_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。
15	Grouping_Code	2	TEXT	100	gl-bus:batchID	複数の請求書のバッチ処理またはグループ化において関連する項目をグループ化する仕組み。例えば、特定のERPシステムで見つかった請求書のグループ化をする場合などがある。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
16	Tax1_Type	1	TEXT	25	gl-cor:taxCode (Note that XBRL GL permits an unlimited number of tax codes and amounts with the glcor:taxes structure.)	税1タイプのコード(例: 売上税、付加価値税)。 このフィールドは、Tax_Table_YYYYMMDDのRegulator_Codeフィールドと一致する必要がある。
17	Tax2_Type	1	TEXT	25	同上	税2タイプのコード(例: 売上税、付加価値税)。 このフィールドは、Tax_Table_YYYYMMDDのRegulator_Codeフィールドと一致する必要がある。
18	Tax3_Type	1	TEXT	25	同上	税3タイプのコード(例: 売上税、付加価値税)。 このフィールドは、Tax_Table_YYYYMMDDのRegulator_Codeフィールドと一致する必要がある。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
19	Tax1_Type_Description	1	TEXT	100	gl-cor:taxDescription (Note that XBRL GL formalizes the tax authority with gl-cor:taxAuthority and provides other standard fields as well.)	税1タイプの説明(例: 税を支払う税務当局や、税を特定するためのその他の情報など)。
20	Tax2_Type_Description	1	TEXT	100	同上	税2タイプの説明(例: 税を支払う税務当局や、税を特定するためのその他の情報など)。
21	Tax3_Type_Description	1	TEXT	100	同上	税3タイプの説明(例: 税を支払う税務当局や、税を特定するためのその他の情報など)。
22	Tax1_Local	2	NUMERIC		gl-cor:taxAmount	税タイプ1の金額は、取引に含まれている。現地通貨で記録される。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
23	Tax2_Local	2	NUMERIC		同上	税タイプ2の金額は、取引に含まれている。現地通貨で記録される。
24	Tax3_Local	2	NUMERIC		同上	税タイプ3の金額は、取引に含まれている。現地通貨で記録される。
25	GL_Line_Debit_Account_Number	1	TEXT	100	gl-cor:accountMainID with glcor:accountPurposeDescription = “debit-value” in a second account structure (Note:XBRL GL permits an unlimited number of accounts or values with a transaction, and is not limited to a single debit or credit value)	取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。

26	GL_Line_Credit_Account_Number	1	TEXT	100	gl-cor:accountMainID with glcor:accountPurposeDescription = "credit-value" in a second account structure	取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。
27	GL_Tax1_Debit_Account_Number	1	TEXT	100	XBRL GL does not have fields explicitly associating GL accounts to tax, although it does permit specification of accounts as tax accounts (gl-cor:accountPurposeCode); it associates tax detail in the glcor:taxes structure with specific accounts by including them within the same gl-cor:entryDetail if the glcor:amount is the same, or within the same gl-cor:entryHeader if amounts differ. As with the GL lines above, the account numbers would be mapped to be mapped to glcor:accountMainID.	税1の取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
28	GL_Tax1_Credit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税1の取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。
29	GL_Tax2_Debit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税2の取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。
30	GL_Tax2_Credit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税2の取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。
31	GL_Tax3_Debit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税3の取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。
32	GL_Tax3_Credit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税3の取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。

32	Segment01	2	TEXT	25	<p>gl-cor:accountSubID with associated gl-cor:accountSubType</p> <p>(Note:XBRL GL tracks hierarchy ID, hierarchy description, and hierarchy type, so it can track code NA, description N. America, and type global area using gl-cor:accountSubID, glcor:accountSubDescription, and glcor:accountSubType, respectively.)</p>	<p>プロフィット・センター、部門、ファンド、プログラム、支店、プロジェクトなどのために使用することができる準備されたセグメントフィールド。</p>
33	Segment02	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
34	Segment03	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
35	Segment04	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
36	Segment05	2	TEXT	25	上記参照	上記参照



## XBRL GLへの追加コメント

請求書の生成リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = “other”	[entriesType]は必須フィールドである。[other]は列挙型のである。
gl-cor: entriesComment	value = “ads: Invoices_Generated_Lines_YYYYMMDD_YYYYMMDD”	[entriesComment]は情報収集に共通しているものを説明する説明フィールドであり、この表現に関連して収集するタイプの監査データ標準の名前空間と修飾子を導入する。

\* 請求書は多くの場合出荷情報に反映され、出荷は複数の注文に対して行うことができるため、元の注文番号に関連する注文や出荷からの各請求詳細は、独立した1つのentryDetailとして表示され、注文詳細(元の注文情報を含む)と請求詳細(元の注文情報はない、入力の見出しをグループ化することで関連付けられる)は区別される。

## 2.7 Open\_Accounts\_Receivable\_YYYYMMDD

Open\_Accounts\_Receivable\_YYYYMMDDテーブルには、指定期日（監査期間の終了あるいは年度末のような）の業務の完了の時点でのすべての未決、未払、あるいは未解決の取引に関する詳細を含んでいる。調査中の期間における売掛債権残高のロールフォワードの場合に、これらのファイルが2つになる場合がある。

このテーブル中の列は、1つのユニークで識別可能な取引について顧客からの支払いが期待される残高を表わす。このファイルは請求書毎の概要レベルである必要はあるが、請求書の勘定項目ごとの詳細レベルである必要はない。指定期日の時点での取引金額の合計は、同じ日の総勘定元帳(GL)中の売掛債権金額合計と一致するはずである。

ファイルは未決の請求書（最初の請求内容が表示され、請求金額が支払われていないまま残っているもの）を含むか、またはすべての文書（請求書・入金額・調整額を含む）を詳細レベルで含んで生成されることがある。いずれにしても、他のファイルからの情報を合わせることで情報の選別が可能になる。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
1	Customer_Account_ID	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode with glcor:identifierType = "customer"	支払が予想されている顧客の識別子か、買掛計上に対する支払を行う顧客の識別子。Customer_Master_Listing_YYYYMMDDファイル内のCustomer_Account_IDと一致しなければならない。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
2	Transaction_ID	1	TEXT	100	gl-cor:documentReference	各請求書に一意の識別子。このIDは、(例えば、文書番号、文書種別、および年)は、各取引を一意に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。請求書データを含む次のすべてのテーブルと同じIDが使用されていない (Invoices_Generated_YYYYMMDD_YYYYMMDD、 Open_Accounts_Receivable_YYYYMMDD、 AR_Cash_Application_YYYYMMDD_YYYYMMDD、 およびAR_Adjustments_YYYYMMDD_YYYYMMDD)。
3	Transaction_Date	1	DATE		gl-cor:documentDate	取引の日付。請求書が入力された日付とは関係がない。請求書の条件に基づいて計算された日付。

4	Transaction_Type	2	TEXT	25	<p>glcor:documentTypeDescription</p> <p>If additional information is needed over the enumerated</p> <p>gl-cor:documentType; see the following enumeration table.</p>	取引の借方または貸方の金額が顧客によって消滅、または借方となった方法のコード値/指標(例えば、小切手、電信送金、現金、貸方メモ、請求書、利息のみの請求書など)。上記がない場合、デフォルトの請求書となる。
5	Transaction_Due_Date	1	DATE		gl-cor:maturityDate	顧客からの支払期日。すべての取引に支払期日があるわけではない(例えば、貸方メモなど)。債権の年齢調べは、通常はこの日付に基づいて計算される。
6	Balance_Amount	2	NUMERIC		gl-taf:documentRemainingBalance	機能通貨またはグループ通貨で記録された残高の合計金額。すべて取引が単一通貨に記録されているため、多通貨換算を実行する必要はない。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
7	Balance_Amount_Currency	2	TEXT	3	gl-muc:amountCurrency	残高に関連する機能通貨やグループ通貨。ISO 4217コーディングを参照。
8	Balance_Amount_Reporting	2	NUMERIC		gl-muc:amountTriangulationAmount	報告通貨で記録された残高金額。
9	Balance_Reporting_Currency	2	TEXT	3	gl-muc:amountTriangulationCurrency	非連結報告のための残高の報告金額に関連する報告通貨。ISO 4217コーディングを参照。
10	Balance_Amount_Local	2	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount	現地通貨での残高金額。
11	Balance_Local_Currency	2	TEXT	3	gl-muc:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。
12	Original_Balance_Amount	1	NUMERIC		gl-cor:amount	機能通貨またはグループ通貨で記録されたはじめの残高(はじめの請求金額)。
13	Original_Balance_Amount_Local	2	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount	現地通貨での金額(はじめの請求金額)。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
14	Original_Balance_Amount_Reporting	2	NUMERIC		gl-muc:amountTriangulationAmount	報告通貨で記録された金額(はじめの請求金額)。
15	Business_Unit_Code	1	TEXT	50	gl-bus:organizationIdentifier	財務諸表が監査対象となるレベルで事業単位、地域、支店などを識別するために利用される。Business_Unit_Listingファイル内のBusiness_Unit_Codeと一致しなければならない。
16	Grouping_Code	2	TEXT	100	gl-bus:batchID	複数の請求書のバッチ処理またはグループ化において関連する項目をグループ化する仕組み。例えば、特定のERPシステムで見つかった請求書のグループ化をする場合などがある。
注記: 詳細(取引レベルの)データが提供される場合、次のフィールドは省略される場合がある。						
17	Amount_Credit_Debit_Indicator	2	TEXT	1	gl-cor:debitCreditCode	金額は借方か貸方かの指標。“C”は貸方、“D”は借方。
18	Amount_Currency	2	TEXT	3	gl-muc:amountCurrency	金額に関連する機能通貨やグループ通貨。ISO 4217コーディングを参照。

19	Amount_Reporting_Currency	2	TEXT	3	gl-muc:amountTriangulationCurrency	非連結報告のための金額に関連する報告通貨。 ISO 4217コーディングを参照。
20	Amount_Local_Currency	2	TEXT	3	gl-muc:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。
21	Reference_Number	2	TEXT	100	gl-cor:documentNumber	内部または外部で生成された取引の識別番号(例えば、小切手番号、電信送金番号、または原始文書ID)。
22	Reference_Date	2	DATE		gl-cor:documentDate	外部で生成された取引の日付(例えば、小切手日付や電信送金日付)。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
23	Segment01	2	TEXT	25	gl-cor:accountSubID with associated gl-cor:accountSubType  (Note:XBRL GL tracks hierarchy ID, hierarchy description, and hierarchy type, so it can track code NA, description N. America, and type global area using gl-cor:accountSubID, gl-cor:accountSubDescription, and gl-cor:accountSubType, respectively.)	プロフィット・センター、部門、ファンド、プログラム、支店、プロジェクトなどのために使用することができる準備されたセグメントフィールド。
24	Segment02	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
25	Segment03	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
26	Segment04	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
27	Segment05	2	TEXT	25	上記参照	上記参照



28	Clearing_Document	2	TEXT	100	gl-cor:documentApplyToNumber	実際の取引活動とリンクする決済文書のID番号。
----	-------------------	---	------	-----	------------------------------	-------------------------

**XBRL GLへの追加コメント**

未決売掛債権リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = "other"	[entriesType]は必須フィールドである。 [other]は列挙型のである。
gl-cor: entriesComment	value = "ads:Open_Accounts_Receivable_Y YYYYMMDD"	[entriesComment]は情報収集に共通しているものを説明する説明フィールドであり、 この表現に関連して収集するタイプの監査データ標準の名前空間と修飾子を導入する。

## 2.8 Cash\_Received\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD

Cash\_Received\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDファイルには、期間内のすべての支払受領済の取引(小切手、電信送金、現金など)が含まれる。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
1	Receipt_ID	1	TEXT	100	gl-cor:documentReference	支払領収済みの各取引に一意の識別子。このIDは、(例えば、顧客番号や支払番号)は、各取引を一意に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。
2	Customer_Account_ID	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode with glcor:identifierType = "customer"	支払を行う顧客の識別子か、買掛計上が行われる顧客の識別子。Customer_Listing_YYYYMMDDファイル内のCustomer_Account_IDと一致しなければならない。

3	Business_Unit_Code	1	TEXT	50	gl-bus:organizationIdentifier	財務諸表が監査対象となるレベルで事業単位、地域、支店などを識別するために利用される。Business_Unit_Listingファイル内のBusiness_Unit_Codeと一致しなければならない。
4	Receipt_Date	1	DATE		gl-bus:documentReceivedDate	顧客の支払が受領された、または顧客の与信が通った日付。
5	Receipt_Fiscal_Year	1	TEXT	4	gl-bus:fiscalYearEnd	Receipt_Dateが記帳された会計年度。YYYYは区切りに使用される。XBRL GLタクソノミフレームワークのための会計期末CCYY-MM-DD (ISO 8601)。
6	Receipt_Period	1	TEXT	10	gl-bus:postingCode	Receipt_Dateが記帳された会計期間。  例には、週単位の期間としてW1-W53、月単位の期間としてM1-M12、四半期単位の期間としてQ1-Q4を含む。
7	Reference_Number	1	TEXT	100	gl-cor:documentNumber	内部または外部で生成された取引の識別番号(例えば、小切手番号、電信送金番号、または原始文書ID)。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
8	Reference_Date	1	DATE		gl-cor:documentDate	外部で生成された取引の日付(例えば、小切手日付や電信送金日付)。
9	Amount_Credit_Debit_Indicator	2	TEXT	1	gl-cor:debitCreditCode	金額は借方か貸方かの指標。“C”は貸方、“D”は借方。
10	Receipt_Type	1	TEXT	25	gl-cor:documentType = “check” or gl-cor:documentType = “paymentother” with code in glbus:paymentMethod	取引の借方または貸方金額が顧客によって消滅または借方となった方法のコード値/指標(例えば、小切手、電信送金、現金など)。Receipt_Type_Listing_YYYYMMDDファイル内のReceipt_Typeに一致しなければならない。
11	Receipt_Amount	1	NUMERIC		gl-cor:amount	機能通貨またはグループ通貨で記録された取引金額。すべて取引が単一通貨に記録されているため、多通貨換算を実行する必要はない。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
12	Receipt_Amount_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountCurrency	領収金額に関連する機能通貨やグループ通貨。ISO 4217コーディングを参照。
13	Receipt_Amount_Reporting	1	NUMERIC		gl-muc:amountTriangulationAmount	報告通貨で記録された取引金額。
14	Receipt_Amount_Reporting_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountTriangulationCurrency	非連結報告のための領収金額に関連する報告通貨。ISO 4217コーディングを参照。
15	Receipt_Amount_Local	1	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount	現地通貨での取引金額。
16	Receipt_Amount_Local_Currency	1	TEXT	3	gl-cor:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。
17	Posting_Status	2	TEXT	20	gl-cor:postingStatus enumerations or gl-cor:postingStatus of “other” with gl-cor:postingStatusDescription	総勘定元帳への取引記帳のステータス(例えば、「記帳済」、「未記帳」)。

18	GL_Debit_Account_Number	2	TEXT	100	gl-cor:accountMainID with glcor:accountPurposeDescription = "debit-value" in a second account structure	取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。
19	GL_Credit_Account_Number	2	TEXT	100	gl-cor:accountMainID with glcor:accountPurposeDescription = "credit-value" in a second account structure	取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。
20	Entered_By	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode with glcor:identifierCategory = "systemUser"	記録を残した人の (User_Listingファイル内の) User_ID。
21	Entered_Date	2	DATE		gl-cor:enteredDate	この取引がシステムに入力された日付。これは、時に作成日と呼ばれる。可能な場合、これは、(ユーザが入力した日付ではなく)システムで生成された日付にする必要がある。この日付は、必ずしも、CheckWire_Dateや実際の取引の日付に対応していない。
22	Entered_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of glcor:enteredDate, mentioned previously)	この取引をシステムに入力した時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻 (HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
23	Approved_By	2	TEXT	100	gl-cor:entryResponsiblePerson	顧客マスタの追加や変更の承認者の (User_Listingファイルの)User_ID。
24	Approved_Date	2	DATE		gl-usk:nextDateRepeat	入力が承認された日付。
25	Approved_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-usk:nextDateRepeat, mentioned previously.)	入力が承認された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。
26	Last_Modified_By	2	TEXT	100	gl-bus:enteredByModified	この入力を最後に修正したユーザの (User_Listingの)User_ID。
27	Last_Modified_Date	2	DATE		gl-usk:lastDateRepeat	入力が最後に変更された日付。
28	Last_Modified_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-usk:lastDateRepeat, mentioned previously.)	入力が最後に変更された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
29	Segment01	2	TEXT	25	gl-cor:accountSubID with associated gl-cor:accountSubType  (Note:XBRL GL tracks hierarchy ID, hierarchy description, and hierarchy type, so it can track code NA, description N. America, and type global area using gl-cor:accountSubID, glcor:accountSubDescription, and glcor:accountSubType, respectively.)	プロフィット・センター、部門、ファンド、プログラム、支店、プロジェクトなどのために使用することができる準備されたセグメントフィールド。
30	Segment02	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
31	Segment03	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
32	Segment04	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
33	Segment05	2	TEXT	25	上記参照	上記参照



### XBRL GLへの追加コメント

入金額リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = “other”	[entriesType]は必須フィールドである。[other]は列挙型の値である。
gl-cor: entriesComment	value = “ads:Cash_Received_YYYYMMDD_YYYYMMDD”	[entriesComment]は情報収集に共通しているものを説明する説明フィールドであり、この表現に関連して収集するタイプの監査データ標準の名前空間と修飾子を導入する。

## 2.9 AR\_Cash\_Application\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD

AR\_Cash\_Application\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDファイルは、調査中の期間内に適用されたすべての入金を含む。

このファイルでは、各請求書に対する領収書の各入金に対してそれぞれ1レコードとなる。例えば、1つの入金の領収書が3つの請求書に対して記入された場合、その領収書に対しては、3つのレコードがあることになり、1レコードは、入金適用された各請求書に対応する。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
1	AR_Application_ID	1	TEXT	100	gl-cor:documentReference	各取引に一意的識別子。このIDは、(例えば、文書番号、文書種別、および年)は、各取引を一意的に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。
2	AR_Application_Date	1	DATE		gl-cor:documentDate	入金取引の日付。取引が入力された日とは関係がない。

3	AR_Application_Fiscal_Year	1	TEXT	4	gl-bus:fiscalYearEnd	AR_Application_Dateが記帳された会計期間。 YYYYは区切りに使用される。XBR L GLタクソノミフレームワークのための会計期末CCYY-MM-DD (ISO 8601)。
4	AR_Application_Period	1	TEXT	10	gl-bus:postingCode	AR_Application_Dateが記帳された会計期間。  例には、週単位の期間としてW1-W53、月単位の期間としてM1-M12、四半期単位の期間としてQ1-Q4を含む。
5	Customer_Account_ID	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode with glcor:identifierType = "customer"	支払が予想されている顧客の識別子か、買掛計上に対する支払を行う顧客の識別子。Customer_Master_Listing_YYYYMMDDファイル内のCustomer_Account_IDと一致しなければならない。
6	Receipt_ID	1	TEXT	100	gl-taf:originatingDocumentNumber with gl-taf:originatingDocumentType = "check" *	Cash_Received_YYYYMMDD_YYYYMMDDファイルの各取引に一意的識別子。一部またはすべての入金額は顧客の買掛債務に適用される。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
7	Invoice_ID	1	TEXT	100	gl-taf:originatingDocumentNumber with gl-taf:originatingDocumentType = "invoice" *	各請求書に一意の識別子。このIDは、(例えば、文書番号、文書種別、および年)は、各取引を一意に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。請求書データを含む次のすべてのテーブルと同じIDが使用されていなければならない (Invoices_Generated_YYYYMMDD_YYYYMMDD、Open_Accounts_Receivable_YYYYMMDD、AR_Cash_Application_YYYYMMDD_YYYYMMDD、およびAR_Adjustments_YYYYMMDD_YYYYMMDD)。 入金顧客レベルのみ(請求書レベルではない)の場合は、空白のままとする。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
8	Business_Unit_Code	1	TEXT	50	gl-organizationIdentifier	財務諸表が監査対象となるレベルで事業単位、地域、支店などを識別するために利用される。Business_Unit_Listingファイル内のBusiness_Unit_Codeと一致しなければならない。
9	Entered_By	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode with glcor:identifierCategory = "systemUser"	記録を残した人の(User_Listingファイル内の)User_ID。
10	Entered_Date	2	DATE		gl-cor:enteredDate	この取引がシステムに入力された日付。これは、時に作成日と呼ばれる。可能な場合、これは、(ユーザが入力した日付ではなく)システムで生成された日付にする必要がある。この日付は、必ずしも、CheckWire_Dateや実際の取引の日付に対応していない。

11	Entered_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of glcor:enteredDate, mentioned previously)	この取引をシステムに入力した時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。
12	Approved_By	2	TEXT	100	gl-cor:entryResponsiblePerson	顧客マスタの追加や変更の承認者の(User_Listingファイルの)User_ID。
13	Approved_Date	2	DATE		gl-usk:nextDateRepeat	入力が承認された日付。
14	Approved_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-usk:nextDateRepeat, mentioned previously)	入力が承認された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。
15	Last_Modified_By	2	TEXT	100	gl-bus:enteredByModified	この入力を最後に修正したユーザの(User_Listingの)User_ID。
16	Last_Modified_Date	2	DATE		gl-usk:lastDateRepeat	入力が最後に変更された日付。
17	Last_Modified_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-usk:lastDateRepeat, mentioned previously)	入力が最後に変更された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。
18	AR_Application_Amount	1	NUMERIC		gl-cor:amount	機能通貨またはグループ通貨で記録された取引金額。すべて取引が単一通貨に記録されているため、多通貨換算を実行する必要はない。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
19	Amount_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountCurrency	売掛債権金額に関連する機能通貨やグループ通貨。ISO 4217コーディングを参照。
20	AR_Application_Amount_Reporting	1	NUMERIC		gl-muc:amountTriangulationAmount	報告通貨で記録された取引金額。
21	Amount_Reporting_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountTriangulationCurrency	非連結報告のための金額に関連する報告通貨。ISO 4217コーディングを参照。
22	AR_Application_Amount_Local	1	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount	現地通貨での取引金額。
23	Amount_Local_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。
24	GL_Line_Debit_Account_Number	2	TEXT	100	gl-cor:accountMainID with glcor:accountPurposeDescription = "debit-value" in a second account structure	取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
25	GL_Line_Credit_Account_Number	2	TEXT	100	gl-cor:mainAccountID with glcor:mainAccountPurposeDescription gl-cor:accountMainID with glcor:accountPurposeDescription n = "credit-value" in a second account structure	取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。



26	Segment01	2	TEXT	25	gl-cor:accountSubID with associated gl-cor:accountSubType  (Note:XBRL GL tracks hierarchy ID, hierarchy description, and hierarchy type, so it can track code NA, description N. America, and type global area using gl-cor:accountSubID, glcor:accountSubDescription, and glcor:accountSubType, respectively.)	プロフィット・センター、部門、ファンド、プログラム、支店、プロジェクトなどのために使用することができる準備されたセグメントフィールド。
27	Segment02	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
28	Segment03	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
29	Segment04	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
30	Segment05	2	TEXT	25	上記参照	上記参照

## XBRL GLへの追加コメント

売掛債権の入金リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = “other”	[entriesType]は必須フィールドである。[other]は列挙型の値である。
gl-cor: entriesComment	value = “ads: AR_Cash_Application_YYYYMMDD_YYYYMMDD”	[entriesComment]は情報収集に共通しているものを説明する説明フィールドであり、この表現に関連して収集するタイプの監査データ標準の名前空間と修飾子を導入する。

\* 入金は、多くの場合複数の請求書に反映され、請求書は複数の出荷および注文に対して発行されるため、各支払に割り当てられる勘定項目の関係は独立したentryDetailとして表示され、各割当て勘定項目と根本的な原始証憑は区別される。

## 2.10 AR\_Adjustments\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD

AR\_Adjustments\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDファイルには、請求書に記載され期間中の請求書の残高に影響を与えるすべての調整(例えば、帳消し、貸方メモ、およびその他の調整など)を含む。ここには、入金額の適用は含まない(それはAR\_Cash\_Application\_YYYYMMDDテーブルに含まれる)。

このファイルでは、各請求書の各調整に対してそれぞれ1レコードとなる。例えば、1つの調整取引が3つの請求書に影響を与える場合、その3つの調整に対する3つのレコードが存在し、1レコードはその調整に影響を受ける各請求書に対応する。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
1	Adjustment_ID	1	TEXT	100	gl-cor:documentReference	記録された調整に一意の識別子。このIDは、(例えば、文書番号、文書種別、および年)は、各取引を一意に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。

2	Adjustment_Type	1	TEXT	25	gl-cor:documentType using provided enumerations or  gl-cor:documentType = {other} and and gl-bus:paymentMethod with codes from AR_Adjustment_Type_Listing_YYYYMMDD	取引の借方または貸方金額が顧客によって消滅または借方となった方法のコード値/指標(例えば、貸方メモ、借方メモ、手数料、その他の調整など)。「1.9 AR_Adjustment_Type_Listing_YYYYMMDD」を参照。
3	Adjustment_Document_Number	1	TEXT	100	gl-cor:documentNumber	内部で作成された調整文書(例えば、貸方メモ)の識別番号。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
4	Invoice_ID	1	TEXT	100	gl-taf:originatingDocumentNumber with gl-taf:originatingDocumentType = "invoice"	各請求書に一意の識別子。このIDは、(例えば、文書番号、文書種別、および年)は、各取引を一意に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。請求書データを含む次のすべてのテーブルと同じIDが使用されていなければならない (Invoices_Generated_YYYYMMDD_YYYYMMDD、Open_Accounts_Recivable_YYYYMMDD、AR_Cash_Application_YYYYMMDD_YYYYMMDD、およびAR_Adjustments_YYYYMMDD_YYYYMMDD)。 調整が顧客レベルのみ(請求書レベルではない)の場合は、空白のままとする。
5	Adjustment_Date	1	DATE		gl-cor:postingDate	取引の日付。取引が入力された日付とは関係がない。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
6	Adjustment_Fiscal_Year	1	TEXT	4	gl-bus:fiscalYearEnd	Adjustment_Dateが記帳された会計期間。 YYYYは区切りに使用される。XBRL GLタクソノミフレームワークのための会計期末CCYY-MM-DD (ISO 8601)。
7	Adjustment_Period	1	TEXT	10	gl-bus:postingCode	Adjustment_Dateが記帳された会計期間。  例には、週単位の期間としてW1-W53、月単位の期間としてM1-M12、四半期単位の期間としてQ1-Q4を含む。
8	Business_Unit_Code	1	TEXT	50	gl-bus:organizationIdentifier	財務諸表が監査対象となるレベルで事業単位、地域、支店などを識別するために利用される。 Business_Unit_Listingファイル内のBusiness_Unit_Codeと一致しなければならない。

9	Customer_Account_ID	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode with glcor:identifierType = "customer"	支払が予想されている顧客の識別子か、買掛計上に対する支払を行う顧客の識別子。Customer_Master_Listing_YYYYMMDDファイル内のCustomer_Account_IDと一致しなければならない。
10	Entered_By	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode with glcor:identifierCategory = "systemUser"	記録を残した人の(User_Listingファイル内の)User_ID。
11	Entered_Date	1	DATE		gl-cor:enteredDate	取引がシステムに入力された日付。これは、時に作成日と呼ばれる。可能な場合、これは、(ユーザが入力した日付ではなく)システムで生成された日付にする必要がある。この日付は、必ずしも、実際の取引の日付に対応していない。
12	Entered_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-cor:enteredDate, mentioned previously.)	この取引をシステムに入力した時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM)(例: PM1:00 = 1300)。
13	Approved_By	2	TEXT	100	gl-cor:entryResponsiblePerson	顧客マスタの追加や変更の承認者の(User_Listingファイルの)User_ID。
14	Approved_Date	2	DATE		gl-usk:nextDateRepeat	入力が承認された日付。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
15	Approved_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-usk:nextDateRepeat, mentioned previously.)	入力が承認された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM)(例: PM1:00 = 1300)。
16	Last_Modified_By	2	TEXT	100	gl-bus:enteredByModified	この入力を最後に修正したユーザの(User_Listingの)User_ID。
17	Last_Modified_Date	2	DATE		gl-usk:lastDateRepeat	入力が最後に変更された日付。
18	Last_Modified_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-lastDateRepeat, mentioned previously.)	入力が最後に変更された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM)(例: PM1:00 = 1300)。
注記: 詳細(勘定項目)データが提供される場合、次のフィールドは省略される場合がある。						
19	Adjustment_Amount	1	NUMERIC		gl-cor:amount	機能通貨またはグループ通貨で記録された取引金額。すべて取引が単一通貨に記録されているため、多通貨換算を実行する必要はない。



フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
20	Adjustment_Amount_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountCurrency	調整金額に関連する機能通貨やグループ通貨。ISO 4217コーディングを参照。
21	Adjustment_Amount_Reporting	1	NUMERIC		gl-muc:amountTriangulationAmount	報告通貨で記録された取引金額。
22	Adjustment_Reporting_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountTriangulationCurrency	非連結報告のための調整の報告金額に関連する報告通貨。ISO 4217コーディングを参照。
23	Adjustment_Amount_Local	1	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount	現地通貨での取引金額。
24	Adjustment_Local_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。
25	Tax1_Type	1	TEXT	25	gl-cor:taxCode (Note that XBRL GL permits an unlimited number of tax codes and amounts with the glcor:taxes structure.)	税1タイプのコード(例: 売上税、付加価値税)。  このフィールドは、Tax_Table_YYYYMMDDのRegulator_Codeフィールドと一致する必要がある。

26	Tax2_Type	1	TEXT	25	同上	<p>税2タイプのコード(例: 売上税、付加価値税)。</p> <p>このフィールドは、Tax_Table_YYYYMMDDのRegulator_Codeフィールドと一致する必要がある。</p>
27	Tax3_Type	1	TEXT	25	同上	<p>税3タイプのコード(例: 売上税、付加価値税)。</p> <p>このフィールドは、Tax_Table_YYYYMMDDのRegulator_Codeフィールドと一致する必要がある。</p>
28	Tax1_Type_Description	1	TEXT	100	gl-cor:taxDescription (Note that XBRL GL formalizes the tax authority with glcor:tax Authority and provides other standard fields as well.)	<p>税1タイプの説明(例: 税を支払う税務当局や、税を特定するためのその他の情報など)。</p>
29	Tax2_Type_Description	1	TEXT	100	同上	<p>税2タイプの説明(例: 税を支払う税務当局や、税を特定するためのその他の情報など)。</p>

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
30	Tax3_Type_Description	1	TEXT	100	同上	税3タイプの説明(例: 税を支払う税務当局や、税を特定するためのその他の情報など)。
31	Tax1_Local	2	NUMERIC		gl-cor:taxAmount	税1タイプの金額は、取引に含まれている。現地通貨で記録される。
32	Tax2_Local	2	NUMERIC		同上	税2タイプの金額は、取引に含まれている。現地通貨で記録される。
33	Tax3_Local	2	NUMERIC		同上	税3タイプの金額は、取引に含まれている。現地通貨で記録される。
34	GL_Debit_Account_Number	2	TEXT	100	gl-cor:accountMainID with gl-cor:accountPurposeDescription = "debit-value" in a second account structure	取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。
35	GL_Credit_Account_Number	2	TEXT	100	gl-cor:accountMainID with gl-cor:accountPurposeDescription = "credit-value" in a second account structure	取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
36	GL_Tax1_Debit_Account_Number	1	TEXT	100	XBRL GL does not have fields explicitly associating GL accounts to tax, although it does permit specification of accounts as tax accounts (gl-cor:accountPurposeCode); it associates tax detail in the gl-cor:taxes structure with specific accounts by including them within the same glcor:entryDetail if the gl-cor:amount is the same, or within the same glcor:entryHeader if amounts differ. As with the previously mentioned GL lines, the account numbers would be mapped to gl-cor:mainAccountID and be mapped to gl-cor:accountMainID.	税1の取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。

37	GL_Tax1_Credit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税1の取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。
38	GL_Tax2_Debit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税2の取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。
39	GL_Tax2_Credit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税2の取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。
40	GL_Tax3_Debit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税3の取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
41	GL_Tax3_Credit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税3の取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。
42	Segment01	2	TEXT	25	gl-cor:accountSubID with associated gl-cor:accountSubType  (Note:XBRL GL tracks hierarchy ID, hierarchy description, and hierarchy type, so it can track code NA, description N. America, and type global area using gl-cor:accountSubID, glcor:accountSubDescription, and glcor:accountSubType, respectively.)	プロフィット・センター、部門、ファンド、プログラム、支店、プロジェクトなどのために使用することができる準備されたセグメントフィールド。
43	Segment02	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
44	Segment03	2	TEXT	25	上記参照	上記参照

45	Segment04	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
46	Segment05	2	TEXT	25	上記参照	上記参照

### XBRL GLへの追加コメント

売掛債権調整リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = “other”	[entriesType]は必須フィールドである。 [other]は列挙型の値である。
gl-cor: entriesComment	value = “ads: AR_Adjustments_YYYYMMDD_YYYYMMDD”	[entriesComment]は情報収集に共通して いるものを説明する説明フィールドであり、 この表現に関連して収集するタイプの監 査データ標準の名前空間と修飾子を導入 する。

\* 調整は、複数の根本的な原始証憑を表す場合があり、各調整の関連は独立したentryDetailとして表示され、調整と根本的な原始証憑は区別される。

## 2.11 AR\_Adjustment\_Lines\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD

AR\_Adjustment\_Lines\_YYYYMMDD\_YYYYMMDDファイルには、AR\_Adjustments\_YYYYMMDD\_YYYYMMDD. ファイル内にある請求書の詳細勘定項目が含まれる。このファイルの使用は任意であるが、管理しきれないデータ容量ではない限り、使用することが推奨される。

このファイルでは、各調整に影響を受ける請求書の各勘定項目に対してそれぞれ1レコードとなる。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
1	Adjustment_ID	1	TEXT	100	gl-cor:documentReference	記録された調整に一意の識別子。このIDは、(例えば、文書番号、文書種別、および年)は、各取引を一意に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。



2	Invoice_ID	1	TEXT	100	gl-taf:originatingDocument Numer with gl-taf:originat ingDocumentType = "invoic e"	各請求書に一意的識別子。このIDは、(例えば、文書番号、文書種別、および年)は、各取引を一意的に識別するためのフィールドを連結することによって作成される必要がある。請求書データを含む次のすべてのテーブルと同じIDが使用されていない(Invoices_Generated_YYYYMMDD_YYYYMMDD、Open_Accounts_Receivable_YYYYMMDD、AR_Cash_Application_YYYYMMDD_YYYYMMDD、および AR_Adjustments_YYYYMMDD_YYYYMMDD)。入金が顧客レベルのみ(請求書レベルではない)の場合は、空白のままとする。
---	------------	---	------	-----	---	---

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
3	Invoice_Line_ID	1	TEXT	10	gl-cor:lineNumber*	調整が適用される元の請求書の勘定項目番号。  入金顧客レベルのみ(請求書レベルではない)の場合は、空白のままとする。
4	Adjustment_Line_Amount	1	NUMERIC		gl-cor:amount	機能通貨またはグループ通貨で記録された取引金額。すべて取引が単一通貨に記録されているため、多通貨換算を実行する必要はない。
5	Adjustment_Line_Amount_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountCurrency	調整金額に関連する機能通貨やグループ通貨。ISO 4217コーディングを参照。
6	Adjustment_Line_Amount_Reporting	1	NUMERIC		gl-muc:amountTriangulationAmount	報告通貨で記録された取引金額。
7	Adjustment_Line_Reporting_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountTriangulationCurrency	非連結報告のための調整の報告金額に関連する報告通貨。ISO 4217コーディングを参照。
8	Adjustment_Line_Amount_Local	1	NUMERIC		gl-muc:amountOriginalAmount	現地通貨での取引金額。

---

9	Adjustment_Line_Local_Currency	1	TEXT	3	gl-muc:amountOriginalCurrency	現地国の報告で要求される通貨。ISO 4217コーディングを参照。
---	--------------------------------	---	------	---	-------------------------------	-----------------------------------

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
10	Tax1_Type	1	TEXT	25	gl-cor:taxCode (Note that XBRL GL permits an unlimited number of tax codes and amounts with the glcor:taxes structure.)	税1タイプのコード(例: 売上税、付加価値税)。このフィールドは、Tax_Table_YYYYMMDDのRegulator_Codeフィールドと一致する必要がある。
11	Tax2_Type	1	TEXT	25	同上	税2タイプのコード(例: 売上税、付加価値税)。このフィールドは、Tax_Table_YYYYMMDDのRegulator_Codeフィールドと一致する必要がある。

12	Tax3_Type	1	TEXT	25	同上	税3タイプのコード(例: 売上税、付加価値税)。  このフィールドは、Tax_Table_YYYYMMDDのRegulator_Codeフィールドと一致する必要がある。
13	Tax1_Type_Description	1	TEXT	100	gl-cor:taxDescription (Note that XBRL GL formalizes the tax authority with gl-cor:taxAuthority and provides other standard fields as well.)	税1タイプの説明(例: 税を支払う税務当局や、税を特定するためのその他の情報など)。
14	Tax2_Type_Description	1	TEXT	100	同上	税2タイプの説明(例: 税を支払う税務当局や、税を特定するためのその他の情報など)。
15	Tax3_Type_Description	1	TEXT	100	同上	税3タイプの説明(例: 税を支払う税務当局や、税を特定するためのその他の情報など)。
16	Tax1_Local	2	NUMERIC		gl-cor:taxAmount	税1タイプの金額は、取引に含まれている。現地通貨で記録される。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
17	Tax2_Local	2	NUMERIC		同上	税2タイプの金額は、取引に含まれている。現地通貨で記録される。
18	Tax3_Local	2	NUMERIC		同上	税3タイプの金額は、取引に含まれている。現地通貨で記録される。
19	GL_Debit_Account_Number	2	TEXT	100	gl-cor:accountMainID with glcor:accountPurposeDescription mainAccountPurposeDescription = "debit-value" in a second account structure	取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。
20	GL_Credit_Account_Number	2	TEXT	100	gl-cor:accountMainID with glcor:accountPurposeDescription = "credit-value" in a second account structure	取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
21	GL_Tax1_Debit_Account_Number	1	TEXT	100	XBRL GL does not have fields explicitly associating GL accounts to tax, although it does permit specification of accounts as tax accounts (gl-cor:accountPurposeCode); it associates tax detail in the glcor:taxes structure with specific accounts by including them within the same gl-cor:entryDetail if the glcor:amount is the same, or within the same gl-cor:entryHeader if amounts differ. As with the previous GL lines, the account numbers would be mapped to glcor:accountMainID.	税1の取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。

22	GL_Tax1_Credit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税1の取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。
23	GL_Tax2_Debit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税2の取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。
24	GL_Tax2_Credit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税2の取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。
25	GL_Tax3_Debit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税3の取引において借方に記帳されたGL勘定科目の番号。
26	GL_Tax3_Credit_Account_Number	1	TEXT	100	同上	税3の取引において貸方に記帳されたGL勘定科目の番号。



フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
28	Segment01	2	TEXT	25	gl-cor:accountSubID with associated gl-cor:accountSubType  (Note:XBRL GL tracks hierarchy ID, hierarchy description, and hierarchy type, so it can track code NA, description N. America, and type global area using gl-cor:accountSubID, glcor:accountSubDescription, and glcor:accountSubType, respectively.)	プロフィット・センター、部門、ファンド、プログラム、支店、プロジェクトなどのために使用することができる準備されたセグメントフィールド。
29	Segment02	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
30	Segment03	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
31	Segment04	2	TEXT	25	上記参照	上記参照
32	Segment05	2	TEXT	25	上記参照	上記参照

## XBRL GLへの追加コメント

売掛債権調整リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = “other”	[entriesType]は必須フィールドである。[other]は列挙型の値である。
gl-cor: entriesComment	value = “ads: AR_Adjustment_Lines_YYYYMMDD_YYYYMMDD”	[entriesComment]は情報収集に共通しているものを説明する説明フィールドであり、この表現に関連して収集するタイプの監査データ標準の名前空間と修飾子を導入する。

\* 調整は、複数の根本的な原始証憑を表す場合があり、各調整項目の関係は独立したentryDetailとして表示され、調整と根本的な原始証憑は区別される。

## 2.12 Receipt\_Type\_Listing\_YYYYMMDD

Receipt\_Type\_Listing\_YYYYMMDDファイルには、Receipt\_Typeコードの詳細な説明が含まれる。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
1	Receipt_Type	1	TEXT	25	gl-bus:paymentMethod	取引の借方または貸方金額が顧客によって消滅または借方となった方法のコード値/指標。
2	Receipt_Type_Description	1	TEXT	100	gl-cor:documentTypeDescription	取引のタイプを示すコード値の説明(小切手、電信送金、現金など)。

## XBRL GLへの追加コメント

XBRL GLは、gl-cor:documentTypeに計数値を使用して、異なるタイプの取引文書と関連する目的を区別する。Receipt\_Type\_Listing\_YYYYMMDDとAR\_Adjustment\_Type\_Listingの記録における違いは、gl-cor:documentTypeを含めることによって、Receipt\_Type\_Listing\_YYYYMMDDの場合は領収の種別(例えば、小切手、その他の支払)、AR\_Adjustment\_Type\_Listing\_YYYYMMDDの場合は調整の種別(例えば、借方メモ、貸方メモ、手数料、手動調整など)を表すことである。次に、受注・入金で最も幅広く使用されるものを列挙する。

小切手 (check)
借方メモ (debit-memo)
貸方メモ (credit-memo)
手数料 (finance-charge)
請求書 (invoice)
注文顧客 (order-customer)
その他の支払 (payment-other)
催促状 (reminder)
手形 (tegata)
出荷 (shipment)
領収書 (receipt)
手動調整 (manual-adjustment)
その他 (other)

領収種別リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = “other”	[entriesType]は必須フィールドである。 [other]は列挙型の値である。
gl-cor: entriesComment	value = “ads:Receipt_Type_Listing_YYYY MMDD”	[entriesComment]は情報収集に共通して いるものを説明する説明フィールドであ り、 この表現に関連して収集するタイプの監 査データ標準の名前空間と修飾子を導入 する。

## 2.13 AR\_Adjustment\_Type\_Listing\_YYYYMMDD

AR\_Adjustment\_Type\_Listing\_YYYYMMDDファイルには、AR\_Adjustment\_Typeコードの詳細な説明が含まれる。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
1	AR_Adjustment_Type	1	TEXT	25	gl-bus:paymentMethod	調整の種別のコード値/指標。
2	AR_Adjustment_Type_Description	1	TEXT	100	gl-cor:documentTypeDescription	取引のタイプを示すコード値の説明(例えば、貸方メモ、借方メモ、手数料、その他の調整など)。

## XBRL GLへの追加コメント

XBRL GLは、gl-cor:documentTypeに計数値を使用して、異なるタイプの取引文書と関連する目的を区別する。Receipt\_Type\_Listing\_YYYYMMDDとAR\_Adjustment\_Type\_Listingの記録における違いは、gl-cor:documentTypeを含めることによって、Receipt\_Type\_Listing\_YYYYMMDDの場合は領収書の種別(例えば、小切手、その他の支払)、AR\_Adjustment\_Type\_Listing\_YYYYMMDDの場合は調整の種別(例えば、借方メモ、貸方メモ、手数料、手動調整など)を表すことである。次は、受注・入金で最も幅広く使用される一覧である。

小切手(check)
借方メモ(debit-memo)
貸方メモ(credit-memo)
手数料(finance-charge)
請求書(invoice)
注文顧客(order-customer)
その他の支払(payment-other)
催促状(reminder)
手形(tegata)
出荷(shipment)
領収書(receipt)
手動調整(manual-adjustment)
その他(other)

売掛債権調整種別リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = “other”	[entriesType]は必須フィールドである。 [other]は列挙型の値である。
gl-cor: entriesComment	value = “ads: AR_Adjustment_Type_Listing_YYYYMMDD”	[entriesComment]は情報収集に共通して いるものを説明する説明フィールドであり、 この表現に関連して収集するタイプの監 査データ標準の名前空間と修飾子を導入 する。



## 2.14 Customer\_Master\_YYYYMMDD

Customer\_Master\_YYYYMMDDファイルには、調査中の期間に生じる変更に対応するために、1回以上データが生成されることが求められる。ファイルが生成される日付はファイル名の一部として記録される。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
1	Customer_Account_ID	1	TEXT	100	gl-cor:identifierCode for internal # with gl-cor:identifierType = "customer"	支払が予想されている顧客の識別子か、買掛計上に対する支払を行う顧客の識別子。
2	Customer_Account_Name	1	TEXT	100	gl-cor:identifierDescription	顧客の名前。
3	Customer_Group	2	TEXT	100	gl-cor:identifierCategory	組織によって顧客をグループに区分する場合、この顧客が区分されるグループ。
4	Customer_Physical_Street_Address1	1	TEXT	100	gl-bus:identifierStreet (*) with glbus:identifierAddressPurpose = "physical"	顧客の住所の行1。
5	Customer_Physical_Street_Address2	1	TEXT	100	gl-bus:identifierAddressStreet2*	顧客の住所の行2。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
6	Customer_Physical_City	1	TEXT	100	gl-bus:identifierCity*	顧客が位置する都市。
7	Customer_Physical_State_Province	1	TEXT	6	gl-bus:identifierStateOrProvince*	顧客が位置する国や都道府県。ISO 3166-2を推奨。
8	Customer_Physical_ZipPostalCode	1	TEXT	20	gl-bus:identifierZipOrPostalCode*	顧客が位置する都市の郵便番号。
9	Customer_Physical_Country	1	TEXT	3	gl-bus:identifierCountry*	顧客が位置する国別コード。ISO 316631661アルファ2またはISO 3166-1アルファの3形式(XXまたはXXX)を推奨。
10	Customer_TIN	1	TEXT	100	gl-cor:identifierAuthorityCode for tax #	顧客の納税者番号。
11	Customer_Billing_Address1	1	TEXT	100	gl-bus:identifierStreet(**) with glbus:identifierAddressPurpose = "billing"	顧客の請求先住所1。
12	Customer_Billing_Address2	1	TEXT	100	gl-bus:identifierAddressStreet2**	顧客の請求先住所2。
13	Customer_Billing_City	1	TEXT	100	gl-bus:identifierCity**	顧客の請求先の都市。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
14	Customer_Billing_State_Province	1	TEXT	6	gl-bus:identifierStateOrProvince**	顧客の請求先の国。ISO 3166-2を推奨。
15	Customer_Billing_ZipPostalCode	1	TEXT	20	gl-bus:identifierZipOrPostalCode**	顧客の請求先の都市の郵便番号。
16	Customer_Billing_Country	1	TEXT	3	gl-bus:identifierCountry**	顧客の請求先の国番号。ISO 3166-1アルファ2またはISO 3166-1アルファの3形式(XXまたはXXX)を推奨。
17	Active_Date	2	DATE		XBRL GL uses gl-cor:identifierActive to note that the customer is currently active or inactive. gl-cor:dateAcknowledged	顧客がアクティブとなった日付。
18	Inactive_Date	2	DATE		gl-cor:confirmedDate	顧客が非アクティブとなった日付。
19	Transaction_Credit_Limit	2	NUMERIC		gl-muc:amountRestatedAmount	顧客のために確立された請求書与信限度。
20	Overall_Credit_Limit	2	NUMERIC		gl-cor:amount	顧客の総残高の与信限度。

21	Terms_Discount_Percentage	2	NUMERIC		gl-cor:terms	顧客が請求書の一定の日数前に支払う場合の割引率。フラットファイルでは、小数点以下1桁として表現される(例えば、10%が10.0として表現される)。 拡張事業報告言語のXBRL GLタクソノミフレームワークにおいては、3つのフィールドTerms_Discount_Percentage、Terms_Discount_DaysおよびTerms_Due_Daysの3つのフィールドは、「xx.x% dd 最終支払期日 dd」の形式で入力されることになる。例えば実質支払期間が30日で、10日以内に支払うと2%割引となる場合では「2% 10 最終支払期日 30」で表現される。
22	Terms_Discount_Days	2	NUMERIC		フィールド番号8の説明を参照。	請求書日付からの日数は、顧客が割引を利用するために有利である。これは小数点以下がない桁数(例えば、nnn)として数字として表現される。
23	Terms_Due_Days	2	NUMERIC		See description for field # 8; explicit in gl-cor:maturityDate	請求書に対する支払遅延となる前の、支払義務を果たすことが可能な日数。
24	Entered_By	1	TEXT	100	gl-cor:enteredBy	記録を残した人の(User_Listingファイル内の)User_ID。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
25	Entered_Date	2	DATE		gl-cor:enteredDate	注文がシステムに入力された日付。これは、時に作成日と呼ばれる。可能な場合、これは、(ユーザが入力した日付ではなく)システムで生成された日付にする必要がある。
26	Entered_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of glcor:enteredDate, mentioned previously.)	この取引をシステムに入力した時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。
27	Approved_By	2	TEXT	100	gl-cor:entryResponsiblePerson	顧客マスタの追加や変更の承認者の(User_Listingファイルの)User_ID。
28	Approved_Date	2	DATE		gl-cor:confirmedDate	顧客マスタの追加や変更が承認された日付。
29	Approved_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of glusk:confirmedDate, mentioned previously.)	入力が承認された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。

フィールド番号	フィールド名	レベル	フラットファイルデータ		XBRL GLタクソノミ要素	説明
			データ型	長さ		
30	Last_Modified_By	2	TEXT	100	gl-bus:enteredByModified	この入力を最後に修正したユーザの(User_Listingの)User_ID。
31	Last_Modified_Date	2	DATE		gl-usk:lastDateRepeat	顧客記録が最後に変更された日付。
32	Last_Modified_Time	2	TIME		(This is included in the ISO 8601 representation of gl-usk:lastDateRepeat, mentioned previously.)	入力が最後に変更された時間。ISO 8601表記の24時間制の時刻(HHMM) (例: PM1:00 = 1300)。
33	PrimaryContact_Name	2	TEXT	100	gl-cor:identifierContactAttentionLine	顧客の一次連絡先の名前。
34	PrimaryContact_Phone	2	NUMERIC		gl-cor:identifierContactPhoneNumber	顧客の一次連絡先の電話番号。
35	PrimaryContact_Email	2	TEXT	100	gl-cor:identifierContactEmailAddress	顧客の一次連絡先の電子メールアドレス。

### XBRL GLへの追加コメント

顧客リストのうちで追加的に必須若しくは望ましいフィールドは次のとおりである。

要素	内容	コメント
gl-cor:entriesType	value = “account”	[entriesType]は必須フィールドである。[other]は列挙型の値である。
gl-cor: entriesComment	value = “ads: Customer_Master_Listing_YYYYMMD”	[entriesComment]は情報収集に共通しているものを説明する説明フィールドであり、この表現に関連して収集するタイプの監査データ標準の名前空間と修飾子を導入する。

### 3.0 受注・入金標準データプロファイリングレポート

抽出されるデータの各セットについては、次のテストがデータプロバイダによって行なわれ、監査人によって独立して確認されるべきである。妥当性検証は、データが要求される各期間の間で行なわれるべきである。データ妥当性検証は下記を含んでいる。

テスト	説明
日付とコントロールトータル	
Required files (要求されているファイル)	要求されたすべてのファイルおよびデータフィールドが提供されていることを確認する。
Date ranges (日付範囲)	<p>次の日付における最小値および最大値。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Sales_Orders_YYYYMMDD_YYYYMMDD <ul style="list-style-type: none"> <li>- Sales_Order_Date</li> <li>- Entered_Date</li> </ul> </li> <li>• Shipments_Made_YYYYMMDD_YYYYMMDD <ul style="list-style-type: none"> <li>- Transaction_Date</li> <li>- Entered_Date</li> </ul> </li> <li>• Invoices_Generated_YYYYMMDD_YYYYMMDD <ul style="list-style-type: none"> <li>- Invoice_Date</li> <li>- Invoice_Due_Date</li> <li>- Entered_Date</li> </ul> </li> <li>• Open_Accounts_Receivable_YYYYMMDD <ul style="list-style-type: none"> <li>- Invoice_Date</li> <li>- Invoice_Due_Date</li> </ul> </li> <li>• AR_Cash_Application_YYYYMMDD_YYYYMMDD <ul style="list-style-type: none"> <li>- AR_Activity_Date</li> <li>- Entered_Date</li> </ul> </li> <li>• Cash_Received_YYYYMMDD_YYYYMMDD <ul style="list-style-type: none"> <li>- Receipt_Date</li> <li>- Entered_Date</li> </ul> </li> <li>• AR_Adjustments_YYYYMMDD_YYYYMMDD <ul style="list-style-type: none"> <li>- Adjustment_Date</li> <li>- Entered_Date</li> </ul> </li> <li>• Customer_Master_Listing_YYYYMMDD - Entered_Date</li> </ul>



Control totals(コントロールトータル)	<p>次の場合におけるレコード数と金額フィールドの合計。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Sales_Orders_YYYYMMDD_YYYYMMDD</li> <li>• Shipments_Made_YYYYMMDD_YYYYMMDD</li> <li>• Invoices_Generated_YYYYMMDD_YYYYMMDD</li> <li>• Open_Accounts_Receivable_YYYYMMDD</li> <li>• AR_Cash_Application_YYYYMMDD_YYYYMMDD</li> <li>• Cash_Received_YYYYMMDD_YYYYMMDD</li> <li>• AR_Adjustments_YYYYMMDD_YYYYMMDD</li> </ul>
----------------------------	--

データレビュー	
Missing data(欠損データ)	フィールドによって表示された欠損や空白値の数。
Invalid data(不適切なデータ)	フィールドフォーマットの要件に準拠していないフィールドのレコードの数(例えば、日付や時刻フォーマットに準拠していない日付や時間、小数点以下2桁を含まない数値フィールドなど)。

---

## 4.0 受注・入金 質問事項

次の情報は企業のITデータについての理解および利用に不可欠である。企業の財務管理をそのIT担当者とのコンサルテーションによって行う場合、可能な限り、データが提供されるごとにその項目の各々を管理対象とするべきである。これらの質問は、すべてを含むことは意図しておらず、例示として示されている。このデータ標準を導入する前に、内部統制の利用と職務分離のテストを通じてシステムのデータの信頼度が評価されるべきである。

### 受注・入金

次の事項を考慮すること。

1. データの提供は、勘定項目レベル(例えば、販売注文の勘定項目ごと、請求書の勘定項目ごと、出荷帳票の勘定項目ごと)か。または、総計レベル(例えば、販売注文ごと、請求書ごと、出荷ごと)か。
2. 提供されないレベル1およびレベル2のデータフィールドはどれか。
3. 売掛債権は顧客の請求書から追跡されるのか。または、顧客に総計で追跡されるのか。
4. 一部支払はどのように処理されるか。一部支払が処理される場合、原本請求書は残りの不足額を記録した補助元帳の中に保持されるか。あるいは、一部支払が行われた時点で記録される残高とともに新しい請求書が発行されるのか。新しい請求書が作成される場合、それらはどのようにシステムで識別されるか。
5. 新しい請求書が原本請求書の一部支払により生成される場合、原本の支払日は保持されるか。それとも、新しい支払日が新しい請求書のために生成されるか。
6. システムは、どのようにして請求書の年齢を計算するか。請求書期日あるいは支払日に基づくか。
7. どのように、関連当事者との取引は識別されるか(例えば、完全子会社あるいは部分所有子会社との取引など)。
8. 支払残高が支払われた時点での未決の勘定項目テーブル内の請求書についての組織としての管理ポリシーは何か。
9. 入金のポリシーは何か。入金が適用されるのは、特定の文書のみか、日付が古い支払残高か、顧客口座か。10. 顧客債権と、そうではないものをどのように区別するか。

---

## 利用者および事業者単位の管理

次の事項を考慮すること。

1. 取引承認あるいは取引変更はシステム内に取り込まれているか。
2. ファイルテーブルおよびマスタファイルテーブルにアクセスして作成・修正・変更の承認をする権限を持っているユーザは誰であるか。
3. 収益を受け取り、信用を供与するプロセスはどれであるか。
4. システムは、どのように取引番号の再使用や手動による上書きを防いでいるか。5. すべての取引の時間フィールドは単一のタイムゾーンに正規化されているか。正規化されている場合、タイムゾーンは何か。